

1 計画策定までの経過

平成26年(2014年)2月	札幌市スポーツ推進計画策定
平成29年(2017年)3月	第2期スポーツ基本計画策定
平成29年(2017年)8月	平成29年度第2回市民意識調査
平成30年(2018年)1月	平成29年度第4回市民意識調査
平成30年(2018年)2月	スポーツ関係団体アンケート調査
平成30年(2018年)6月	教育委員会会議審議
平成30年(2018年)7月	第27期第1回札幌市スポーツ推進審議会
	市民ワークショップ実施
平成30年(2018年)9月	第27期第2回札幌市スポーツ推進審議会
平成30年(2018年)10月	第27期第3回札幌市スポーツ推進審議会
平成31年(2019年)3月	教育委員会会議審議
	パブリックコメント実施
令和元年(2019年)5月	第27期第4回札幌市スポーツ推進審議会
	教育委員会会議審議
令和元年(2019年)6月	札幌市スポーツ推進計画(改定版)策定

2 平成29年度 指標達成度調査結果概要

■設計

調査期間 平成30年(2018年)2月1日(木)～2月23日(金)
 調査方法 郵送法
 調査対象者 札幌市全域の18歳以上の男女4,000人
 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔無作為抽出法

■回収結果

発送数 4,000通
 回収数 1,566通
 回収率 39.2%

■回答者の属性

		回答者数	男性	女性	無回答
全 体		1,566	38.1	60.8	1.1
性 別	男性	597	100.0	0.0	0.0
	女性	952	0.0	100.0	0.0
	無回答	17	0.0	0.0	100.0
年代別	18～19歳	23	39.1	60.9	0.0
	20～29歳	119	34.5	65.5	0.0
	30～39歳	194	30.4	69.6	0.0
	40～49歳	267	37.1	62.5	0.4
	50～59歳	247	34.4	65.6	0.0
	60～64歳	160	45.0	55.0	0.0
	65～69歳	210	41.0	58.1	1.0
	70歳以上	331	43.8	54.7	1.5
	無回答	15	6.7	33.3	60.0
居住区別	中央区	208	38.5	60.6	1.0
	北区	221	37.1	62.4	0.5
	東区	189	38.1	61.4	0.5
	白石区	147	40.8	58.5	0.7
	厚別区	115	40.0	60.0	0.0
	豊平区	169	38.5	61.5	0.0
	清田区	87	35.6	64.4	0.0
	南区	126	38.1	60.3	1.6
	西区	176	37.5	62.5	0.0
	手稲区	116	38.8	60.3	0.9
	無回答	12	16.7	8.3	75.0

■アンケート結果(スポーツ関連部分を抜粋)

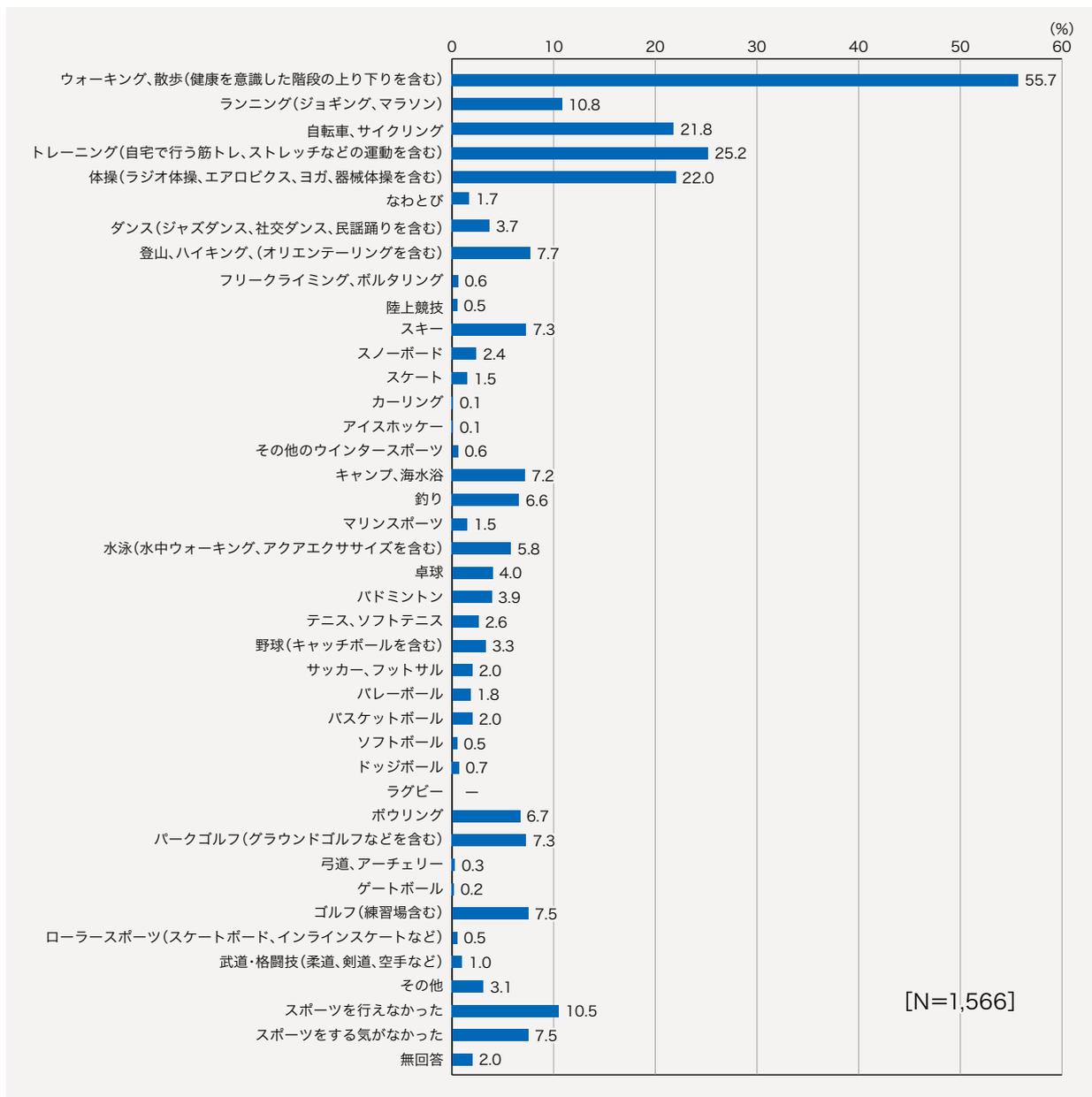
【問】あなたは、この1年間に運動・スポーツを行いましたか。行った場合は、あてはまるものすべてに○をつけてください。

なお、運動・スポーツには、健康づくりを意識して日常生活で行う軽い運動(徒歩通勤、自転車通勤、階段の積極的な利用など)も含まれます。運動・スポーツを行わなかった場合は、「スポーツを行えなかった」または「スポーツをする気がなかった」のいずれかに○をつけてください。

※ 障がいに応じた用具やルールの修正などがある競技はもとの競技に含まれます。

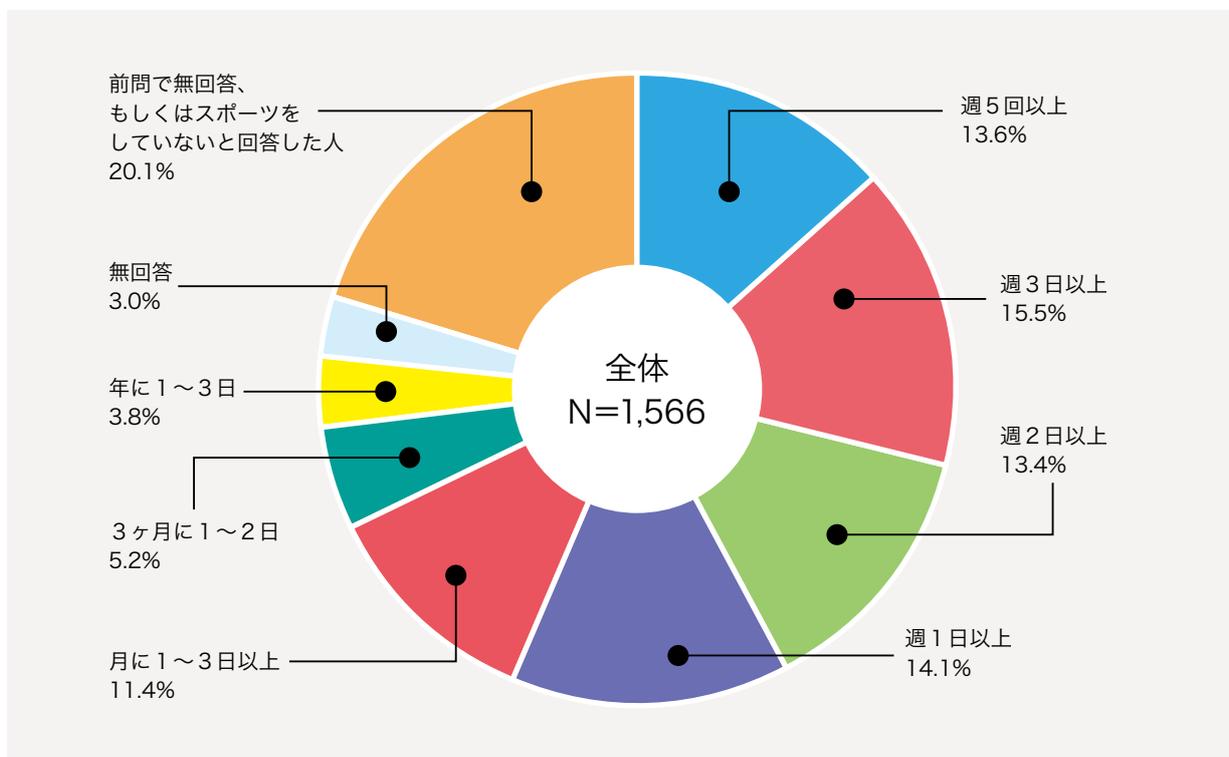
例：車いすマラソン → 2. ランニング(ジョギング、マラソン)

ブラインドサッカー → 25. サッカー、フットサル



※前問で、いずれかのスポーツに○をつけた方にお聞きします。

【問】あなたが、前問 で答えたスポーツを行った日数を全部合わせると、1年間で何日くらいになりますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



※スポーツ実施率の算出について

スポーツ実施率は、成人のうち、「週1日以上(年51～100日)」、「週2日以上(年101日～150日)」、「週3日以上(年251日以上)」、「週5日以上(年251日以上)」と回答した人数の割合です。

上記グラフは18歳、19歳を含んでいることから56.6%という数字になりますが、成人で算出すると、56.4%になります。

3 平成29年度 第2回市民意識調査結果概要

■設計

調査期間 平成29年(2017年)8月18日(金)～9月1日(金)
 調査方法 郵送法
 調査対象者 札幌市全域の18歳以上の男女5,000人
 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔無作為抽出法

■回収結果

発送数 5,000通
 回収数 2,596通
 回収率 51.9%

■回答者の属性

		実数	比率(%)
対象者全体		2,596	51.9
性別	男性	1,020	39.3
	女性	1,550	59.7
	無回答	26	1.0
年齢	29歳以下	229	8.8
	30～39歳	323	12.4
	40～49歳	413	15.9
	50～59歳	451	17.4
	60～69歳	579	22.3
	70歳以上	581	22.4
	無回答	20	0.8
	居住区別	中央区	295
北区		388	14.9
東区		310	11.9
白石区		275	10.6
厚別区		183	7.0
豊平区		296	11.4
清田区		147	5.7
南区		193	7.4
西区		288	11.1
手稲区		204	7.9
無回答		17	0.7

		実数	比率(%)
対象者全体		2,596	51.9
職業	会社役員	78	3.0
	会社員	645	24.8
	公務員	109	4.2
	自営業	107	4.1
	パート・アルバイト	395	15.2
	主婦・主夫	549	21.1
	学生	76	2.9
	無職	518	20.0
	その他	73	2.8
	無回答	46	1.8
	世帯構成	単身世帯	421
一世代世帯		808	31.1
二世帯世帯		1,065	41.0
三世帯世帯		120	4.6
その他		154	5.9
無回答		28	1.1
同居家族	配偶者	1,599	61.6
	乳幼児	141	5.4
	就学前児童	142	5.5
	小学生	229	8.8
	中学生	152	5.9
	高校生	137	5.3
	大学(院)・専門学校生	148	5.7
	65才以上の高齢者	401	15.4
	上記以外	562	21.6
	いない	385	14.8
無回答	106	4.1	

■テーマごとの設問と主な結果(スポーツ関連部分を抜粋)

※構成比(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しています。

テーマ3 スポーツについて

市民の皆さまのスポーツに関する活動の現状をお聞きし、今後のスポーツ環境整備のための参考とさせていただきます。

問13 1年以内にスポーツを行った割合

「スポーツを行った」	39.4%
「スポーツを行わなかった」	58.2%

問14 今後行いたいウインタースポーツ(複数回答)

「スキー」	24.7%
「スケート」	12.9%
「スノーボード」	11.6%
「カーリング」	10.1%
※「ウインタースポーツを行いたいと思わない」	41.6%

《問14でいずれかのウインタースポーツに○をつけた方を対象》

問14-1 ウインタースポーツを行う上での妨げ(複数回答)

「仕事や家事が忙しい」	38.0%
「用具購入にお金がかかる」	36.5%
「施設利用料が高い」	25.4%
「病気・体力・年齢」	23.3%
「施設へのアクセスが悪い」	21.0%

問15 今後行いたいウインタースポーツ以外のスポーツ(複数回答)

「ウォーキング、散歩」	49.7%
「筋力トレーニング」	22.7%
「水泳、水中ウォーキング」	19.3%
「エアロビクス、ヨガ」	17.1%
「キャンプ、海水浴」	14.1%
※「スポーツを行いたいと思わない」	7.6%

《問15でいずれかのスポーツに○をつけた方を対象》

問15-1 ウィンタースポーツ以外のスポーツを行う上での妨げ(複数回答)

「仕事や家事が忙しい」	35.1%
「病気・体力・年齢」	28.4%
「施設の利用日や時間が限られている」	21.3%
「一緒に活動する仲間が少ない」	17.2%
「施設利用料が高い」	17.2%

問16 1年以内に直接観戦したスポーツ(複数回答)

「プロ野球」	33.0%
「プロサッカー」	7.5%
「マラソン、駅伝」	6.2%
「アマチュア野球(児童・学生を含む)」	4.8%
「ゴルフ」	4.0%
※「観戦しなかった」	48.9%

《問16でいずれかのスポーツに○をつけた方を対象》

問16-1 直接スポーツ観戦をしたきっかけ(複数回答)

「チームや選手のファン」	37.4%
「チケットを入手した」	35.1%
「家族や知人からの誘い」	31.3%
「自分がそのスポーツをしている(していた)」	19.8%
「観戦する施設が近い」	14.6%

《問16で「観戦しなかった」と答えた方を対象》

問16-2 直接スポーツ観戦をしたいと思うきっかけ(複数回答)

「観戦する施設が近い」	35.7%
「手軽にチケットを入手できる」	32.6%
「家族や知人からの誘い」	32.5%
「家族や知人が出場する」	26.8%
「国際大会が札幌で開催される」	9.7%

問17 「スポーツボランティア^{※9}」参加経験の有無

「参加したことがある」	8.1%
「参加したことがない」	89.0%

※9 【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わることを指す

問18 「スポーツボランティア^{*9}」への参加意志の有無

「したいと思う」	18.8%
「したいと思わない」	71.3%

《問18で「したいと思う」と答えた方を対象》

問18-1 「スポーツボランティア^{*9}」への参加を決める際に重視するもの(複数回答)

「時間や期間が適度であること」	73.8%
「身近な場所で参加できること」	66.1%
「イベント・大会に魅力があること」	46.6%
「ボランティアに関する情報が入手しやすいこと」	25.8%
「選手や他のボランティアとの交流ができること」	22.7%

問19 障がい者スポーツへの関わりの有無(複数回答)

「新聞・ニュースなどで試合結果を見たり聞いたりしたことがある」	20.1%
「テレビで試合中継を観戦したことがある」	18.6%
「直接観戦したことがある」	2.8%
「大会のスタッフとして関わったことがある」	2.2%
「寄付などの間接的な支援活動で関わったことがある」	2.0%
※「関わったことがない」	67.2%

問20 障がい者スポーツ振興のために必要と感ずるもの

「障がい者スポーツについての情報発信」	25.6%
「障がい者スポーツを観戦する機会」	12.6%
「優先的に障がい者スポーツができる場」	12.1%
「障がい者スポーツを体験する機会」	7.9%
「障がい者スポーツについての相談体制」	1.7%
※「特になし」	6.9%

4 平成29年度 第4回市民意識調査結果概要

■設計

調査期間 平成30年(2018年)1月12日(金)～1月26日(金)
 調査方法 郵送法
 調査対象者 札幌市全域の18歳以上の男女5,000人
 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔無作為抽出法

■回収結果

発送数 5,000通
 回収数 2,602通
 回収率 52.0%

■回答者の属性

		実数	比率(%)
対象者全体		2,602	52.0
性別	男性	994	38.2
	女性	1,587	61.0
	無回答	21	0.8
年齢	29歳以下	214	8.2
	30～39歳	330	12.7
	40～49歳	468	18.0
	50～59歳	452	17.4
	60～69歳	560	21.5
	70歳以上	558	21.4
	無回答	20	0.8
	居住区別	中央区	301
北区		364	14.0
東区		330	12.7
白石区		245	9.4
厚別区		178	6.8
豊平区		295	11.3
清田区		156	6.0
南区		212	8.1
西区		294	11.3
手稲区		209	8.0
無回答		18	0.7

		実数	比率(%)
対象者全体		2,602	52.0
職業	会社役員	81	3.1
	会社員	651	25.0
	公務員	103	4.0
	自営業	99	3.8
	パート・アルバイト	407	15.6
	主婦・主夫	564	21.7
	学生	75	2.9
	無職	506	19.4
	その他	83	3.2
	無回答	33	1.3
	世帯構成	単身世帯	435
一世代世帯		797	30.6
二世帯世帯		1,070	41.1
三世帯世帯		110	4.2
その他		148	5.7
無回答		42	1.6
同居家族	配偶者	1,601	61.5
	乳幼児	140	5.4
	就学前児童	165	6.3
	小学生	253	9.7
	中学生	139	5.3
	高校生	147	5.6
	大学(院)・専門学校生	128	4.9
	65才以上の高齢者	390	15.0
	上記以外	559	21.5
	いない	398	15.3
無回答	81	3.1	

■テーマごとの設問と主な結果(スポーツ関連部分を抜粋)

※構成比(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しています。

テーマ3 スポーツについて

札幌市では、今後の体育館、プール、ウインタースポーツ施設のあり方を検討しています。そこで、皆さまのスポーツ施設の利用状況などについてお聞きし、今後のスポーツ施設の整備の参考とさせていただきます。

問10 過去1年間にスポーツを行ったか

「行った」	58.0%
「行わなかった」	40.2%

問11 スポーツを行う場所(複数回答)

「公園、運動広場、緑地」	35.4%
「公共スポーツ施設」	27.1%
「自宅」	26.3%
「民間スポーツ施設」	24.3%
「海、山、川などの自然」	22.8%

問12 過去1年間の公共体育館利用の有無(複数回答)

「中央体育館」	2.7%
「北区体育館」	2.3%
「東区体育館」	2.5%
「白石区体育館」	1.9%
「厚別区体育館」	1.5%
「豊平区体育館」	2.0%
「清田区体育館」	2.1%
「南区体育館」	1.5%
「西区体育館」	2.9%
「手稲区体育館」	1.9%
「中島体育センター」	1.4%
「宮の沢屋内競技場」	0.6%
「美香保体育館(夏季のみ)」	0.7%
「他の公共体育館」	4.6%
「利用していない」	74.0%

問13 公共体育館配置場所の満足度

「満足している」	6.9%
「どちらかといえば満足している」	16.9%
「どちらかといえば満足していない」	11.3%
「満足していない」	9.6%
「わからない」	53.1%

問14 公共体育館配置数の満足度

「満足している」	7.3%
「どちらかといえば満足している」	16.8%
「どちらかといえば満足していない」	11.2%
「満足していない」	9.6%
「わからない」	52.9%

問15 公共体育館に求めるもの(3つまで回答)

「地下鉄などの交通アクセスの利便性」	37.4%
「身近にあること」	36.5%
「利用しやすい料金設定」	35.4%
「駐車場の広さ」	28.0%
「利用しやすい開館時間」	18.8%

問16 過去1年間の公的温水プール利用の有無(複数回答)

「厚別温水プール」	1.2%
「豊平公園温水プール」	0.9%
「平岸プール」	2.0%
「白石温水プール」	0.9%
「手稲曙温水プール」	1.3%
「東温水プール」	1.6%
「清田温水プール」	0.8%
「西温水プール」	1.6%
「サンシャインスポーツクラブ(中央区公的温水プール)」	0.6%
「札幌サンプラザ(北区公的温水プール)」	0.8%
「北海道青少年会館コンパス(南区公的温水プール)」	0.6%
「利用していない」	84.7%

問17 公的温水プール配置場所の満足度

「満足している」	6.6%
「どちらかといえば満足している」	13.0%
「どちらかといえば満足していない」	8.5%
「満足していない」	8.1%
「わからない」	60.3%

問18 公的温水プール配置数の満足度

「満足している」	5.7%
「どちらかといえば満足している」	13.2%
「どちらかといえば満足していない」	8.2%
「満足していない」	8.5%
「わからない」	61.3%

問19 公的温水プールに求める機能(3つまで回答)

「地下鉄などの交通アクセスの利便性」	30.9%
「身近にあること」	30.2%
「利用しやすい料金設定」	29.1%
「使いやすい更衣室・シャワー設備」	23.7%
「駐車場の広さ」	22.5%

問20 過去1年間にウインタースポーツを行ったか

「行った」	15.7%
「行わなかった」	81.9%

調査結果の詳細は札幌市HPに掲載しています。

[http://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/citi_enq/]

5 札幌市スポーツ推進計画の中間見直しに係るアンケート調査

■調査期間

平成30年(2018年)2月8日(木)～23日(金)

■調査対象

- (1) 札幌市体育協会加盟競技団体 53団体
- (2) 障がい者スポーツ団体 10団体
- (3) 公共スポーツ施設指定管理者^{*19}・札幌市障がい者スポーツ協会 4団体

■調査概要

本アンケートは、上記の調査対象団体へ、これまでの団体の状況と今後の取組や考え方などについて、スポーツ推進計画の見直しの参考とすることを目的に実施しました。

また、公共スポーツ施設指定管理者^{*19}並びに障がい者スポーツ協会へのアンケートについては、平成29年3月にスポーツ庁より公表された「第2期スポーツ基本計画」に対して、組織の取組として重点的に実施していること、検討していることについても回答を求めました。

■回答状況

- (1) 回答数 49団体
 - 内訳 1 札幌市体育協会加盟競技団体……………41団体
 - 2 障がい者スポーツ団体…………… 4団体
 - 3 公共スポーツ施設指定管理者^{*19}・札幌市障がい者スポーツ協会…………… 4団体
- (2) 回答率 73.1%
 - 内訳 1 札幌市体育協会加盟競技団体…………… 77.4%
 - 2 障がい者スポーツ団体…………… 40.0%
 - 3 公共スポーツ施設指定管理者^{*19}・札幌市障がい者スポーツ協会…………… 100%

^{*19} 【指定管理者】…公の施設の設置目的を効果的に達成するため、法令等に基づき、その施設の管理運営を行うよう、地方公共団体によって指定された、法人その他の団体

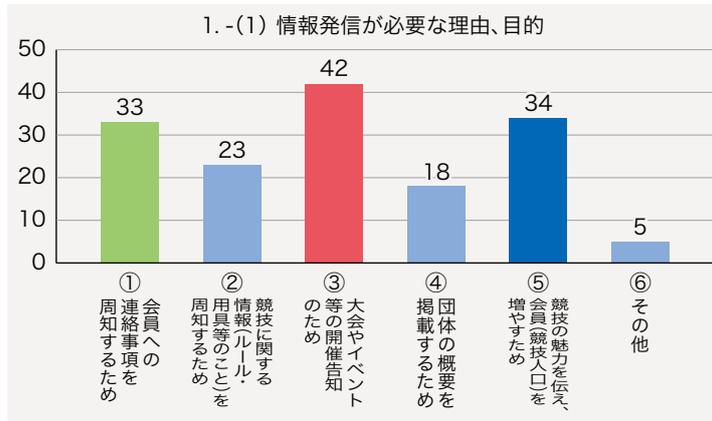
■アンケート回答集計

1. 情報発信に関すること ※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体向け設問

(1) 情報発信が必要な理由、目的 ※複数回答

- ① 会員への連絡事項を周知するため
- ② 競技に関する情報(ルール・用具等のこと)を周知するため
- ③ 大会やイベント等の開催告知のため
- ④ 団体の概要を掲載するため
- ⑤ 競技の魅力伝え、会員(競技人口)を増やすため
- ⑥ その他

【回答:45団体/全63団体 回答率:71.4% 回答数:155件】

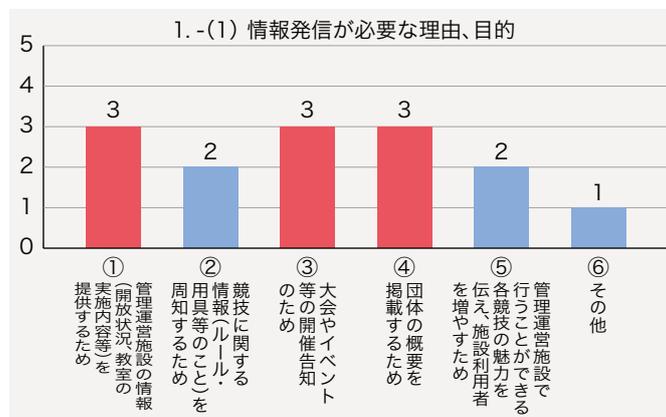


1. 情報発信に関すること ※札幌市スポーツ施設指定管理者^{*19}向け設問

(1) 情報発信が必要な理由、目的 ※複数回答

- ① 管理運営施設の情報(開放状況、教室の実施内容等)を提供するため
- ② 競技に関する情報(ルール・用具等のこと)を周知するため
- ③ 大会やイベント等の開催告知のため
- ④ 団体の概要を掲載するため
- ⑤ 管理運営施設で行うことができる各競技の魅力伝え、施設利用者を増やすため
- ⑥ その他

【指定管理者^{*19}=回答:3団体/全3団体 回答率:100% 回答数:14件】

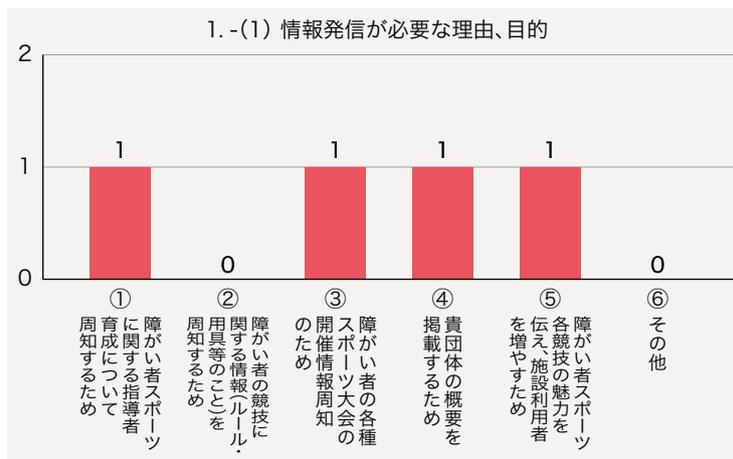


1. 情報発信に関すること ※札幌市障がい者スポーツ協会向け設問

(1) 情報発信が必要な理由、目的 ※複数回答

- ① 障がい者スポーツに関する指導者育成について周知するため
- ② 障がい者の競技に関する情報(ルール・用具等のこと)を周知するため
- ③ 障がい者の各種スポーツ大会の開催情報周知のため
- ④ 貴団体の概要を掲載するため
- ⑤ 障がい者スポーツ各競技の魅力を伝え、競技者・施設利用者を増やすため
- ⑥ その他

【障がい者スポーツ=回答:1団体/全1団体 回答率:100% 回答数:4件】

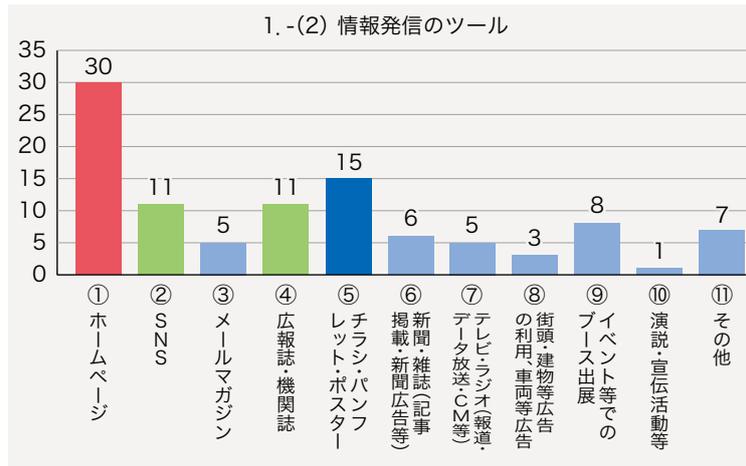


1. 情報発信に関すること ※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

(2) 情報発信の方法として利用しているツール ※複数回答

- ① ホームページ ② SNS ③ メールマガジン ④ 広報誌・機関誌
- ⑤ チラシ・パンフレット・ポスター
- ⑥ 新聞・雑誌(記事掲載・新聞広告等【電子版を含む】)
- ⑦ テレビ・ラジオ(報道・データ放送・CM等)
- ⑧ 街頭・建物等広告(掲示板)の利用、車両等広告等
- ⑨ イベント等でのブース出展 ⑩ 演説・宣伝活動等 ⑪ その他

【回答:48団体/全67団体 回答率:71.6% 回答数:103件 ※未回答1件を含む】

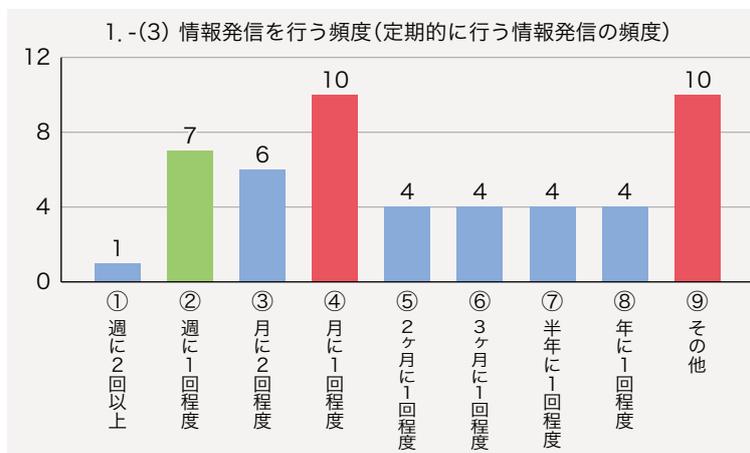


1. 情報発信に関すること ※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

(3) 情報発信を行う頻度(定期的に行う情報発信の頻度) ※単回答

- ① 週に2回以上 ② 週に1回程度 ③ 月に2回程度
- ④ 月に1回程度 ⑤ 2ヶ月に1回程度 ⑥ 3ヶ月に1回程度
- ⑦ 半年に1回程度 ⑧ 年に1回程度 ⑨ その他

【回答:46団体/全67団体 回答率:68.7% 回答数:53件 ※未回答3件を含む】



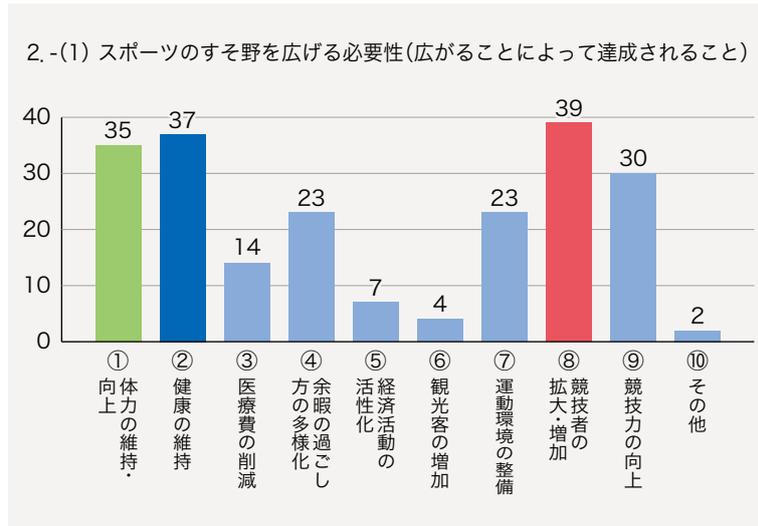
2. 「スポーツ(競技・健康維持運動)のすそ野を広げる」必要性と取り組みに関すること

※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

(1) スポーツのすそ野を広げる必要性(すそ野が広がることによって達成されること) ※複数回答

- ① 体力の維持・向上
- ② 健康の維持
- ③ 医療費の削減
- ④ 余暇の過ごし方の多様化
- ⑤ 経済活動の活性化
- ⑥ 観光客の増加
- ⑦ 運動環境の整備
- ⑧ 競技者の拡大・増加
- ⑨ 競技力の向上
- ⑩ その他

【回答:49団体/全67団体 回答率:73.1% 回答数:214件】



2. 「スポーツ(競技・健康維持運動)のすそ野を広げる」必要性和取り組みに関すること

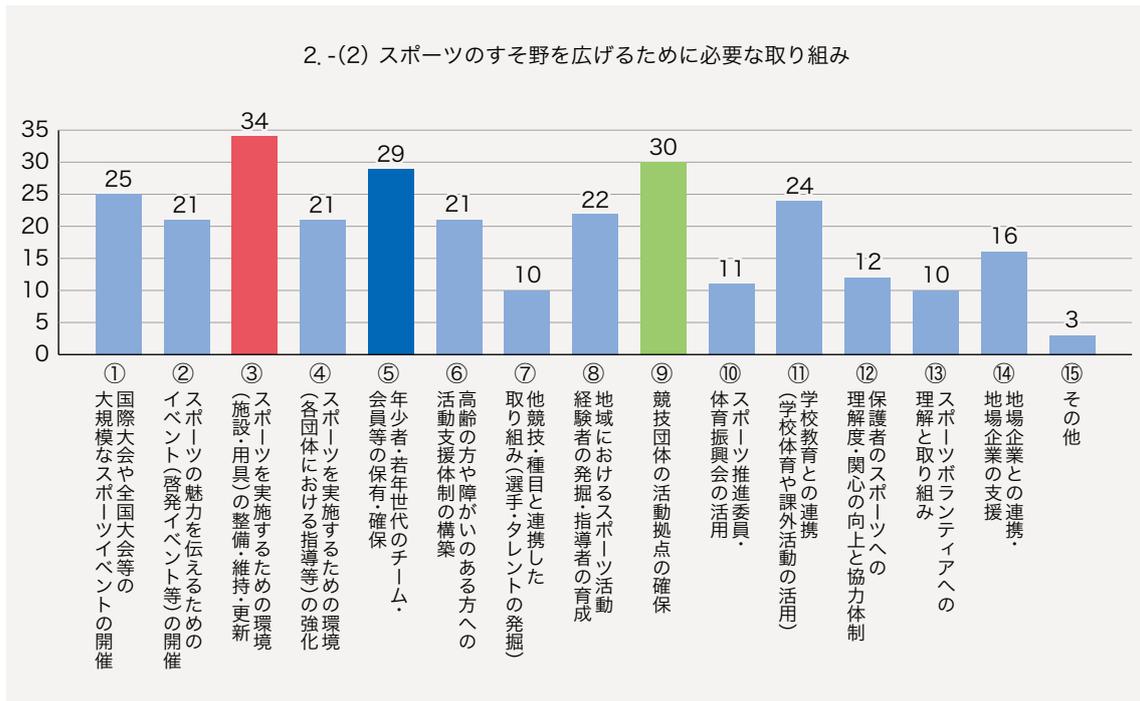
※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

(2) スポーツのすそ野を広げるために必要な取り組みとして考えられることは何か

※複数回答

- ① 国際大会や全国大会等の大規模なスポーツイベントの開催
- ② スポーツの魅力を伝えるためのイベント(啓発イベント等)の開催
- ③ **スポーツを実施するための環境(施設・用具)の整備・維持・更新**
- ④ スポーツを実施するための環境(各団体における指導等)の強化
- ⑤ **年少者・若年世代のチーム・会員等の保有・確保**
- ⑥ 高齢の方や障がいのある方への活動支援体制の構築
- ⑦ 他競技・種目と連携した取り組み(選手・タレントの発掘)
- ⑧ 地域におけるスポーツ活動経験者の発掘・指導者の育成
- ⑨ **競技団体の活動拠点の確保**
- ⑩ スポーツ推進委員^{※15}・体育振興会^{※16}の活用
- ⑪ 学校教育との連携(学校体育や課外活動の活用)
- ⑫ 保護者のスポーツへの理解度・関心の向上と協力体制
- ⑬ スポーツボランティア^{※9}への理解と取り組み
- ⑭ 地場企業との連携・地場企業の支援
- ⑮ その他

【回答:48団体/全67団体 回答率:71.6% 回答数:290件 ※未回答1件を含む】



※9 【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わることを目指す

※15 【スポーツ推進委員】…スポーツ基本法第32条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する非常勤の職員(任期2年)。各地域のスポーツ関係団体と連携を図り、全市及び各区スポーツ事業等の企画・運営及び指導を行うなど、地域スポーツの振興に取り組んでいる

※16 【体育振興会】…地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織

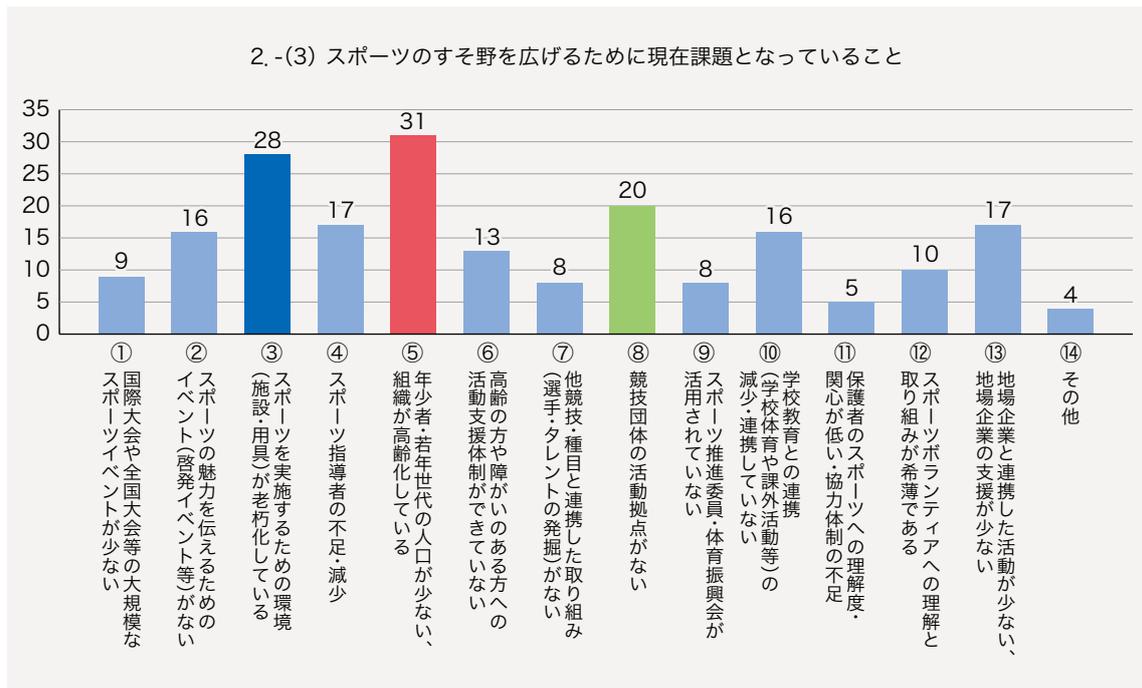
2. 「スポーツ(競技・健康維持運動)のすそ野を広げる」必要性和取り組みに関すること

※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

(3) スポーツのすそ野を広げるために現在課題となっていることは何か ※複数回答

- ① 国際大会や全国大会等の大規模なスポーツイベントが少ない
- ② スポーツの魅力を伝えるためのイベント(啓発イベント等)がない
- ③ **スポーツを実施するための環境(施設・用具)が老朽化している**
- ④ スポーツ指導者の不足・減少
- ⑤ **年少者・若年世代の人口が少ない、組織が高齢化している**
- ⑥ 高齢の方や障がいのある方への活動支援体制ができていない
- ⑦ 他競技・種目と連携した取り組み(選手・タレントの発掘)がない
- ⑧ **競技団体の活動拠点が無い**
- ⑨ スポーツ推進委員^{*15}や体育振興会^{*16}が活用されていない
- ⑩ 学校教育(学校体育や課外活動等)の減少・連携していない
- ⑪ 保護者のスポーツへの理解度・関心が低い・協力体制の不足
- ⑫ スポーツボランティア^{*9}への取り組みが希薄である
- ⑬ 地場企業と連携した活動が少ない、地場企業の支援が少ない
- ⑭ その他

【回答:49団体/全67団体 回答率:73.1% 回答数:202件】



※9 【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わること指す

※15 【スポーツ推進委員】…スポーツ基本法第32条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する非常勤の職員(任期2年)。各地域のスポーツ関係団体と連携を図り、全市及び各区スポーツ事業等の企画・運営及び指導を行うなど、地域スポーツの振興に取組んでいる

※16 【体育振興会】…地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織

3. 子ども・高齢の方・障がいのある方への取り組みに関すること、女性の活躍・ビジネスパーソン^{※13} (働く世代)に対する取り組みに関すること ※各項目 記述回答

(1) 子ども達がスポーツに親しめる(楽しめる)環境をつくるために行っている取り組みについて、具体的事例があればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体・障がい者スポーツ団体のうち、27団体から回答があった。
- 回答内容の多くは「体験会・教室の実施」で、一部親子を対象とした事業を実施している団体もあった。また、「市民体育大会」を活用しているという回答も多かった。体験会については、それぞれの競技団体が単独で実施していることが多く、普及活動や啓発活動が、他の競技団体と協働・連携して実施されるケースは少ない。

(2) 高齢の方がスポーツに親しむことができる(楽しむことができる)ための取り組みについて、具体的事例があればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体・障がい者スポーツ団体のうち、21団体から回答があった。
- 「マスターズ大会の開催」が多数を占め、「愛好家」や「経験者」を対象とした取り組みが中心となっている。

(3) 女性を対象とした取り組みについて、具体的な事例があればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体の15団体から回答があったが、障がい者スポーツ団体からの回答はなかった。
- 大会の開催に関する回答が半数以上。なお、「競技について男女間のレベル・体力等に格差がない」ことから、特別な取り組みを実施していない団体もあった。

(4) 障がいのある方がスポーツに親しむことができる(楽しむことができる)取り組みについて、具体的事例があればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体の10団体より回答があり、障がいを持つ方の大会の支援(運営協力等)という回答が多かった。その他は、競技指導が中心。

(5) ビジネスパーソン^{※13}(働く世代)がスポーツに関わることができるような取り組みについて、具体的事例があればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体の11団体から回答があり、多くは大会の開催という内容。
- 障がいを持つ方、高齢の方への取り組み同様、既に競技をしている愛好家を対象とした取り組みが多く、新たにスポーツをしようとする人へのアプローチが少ない。

※13 【ビジネスパーソン】…20歳代から50歳代にかけての働く世代のこと

4. 他団体との連携・協働、地域との連携・交流等に関すること ※各項目 記述回答

(1) 気軽にスポーツを楽しめるような取り組みについて、他の組織と連携・協働している事業があればご記入ください。

【回答概要】

- 地域の祭りやイベントを活用した事例、区役所と連携した講習会などの事例が多く挙げた一方、スポーツ推進委員会や体育振興会^{※16}、企業と連携した事例は少ない。
- 大学については、部活動の支援や大会参加依頼などの活動に留まっており、大会の支援(運営協力)、講習会の開催などの実施件数は少ない。

(2) 他の組織とお互いにボランティアなど競技・大会等を支えあう事業があればご記入ください。

【回答概要】

- ボランティア活動等において他の組織との、協働・連携を実施している団体は少ない。(1)の設問に対する回答と同じ内容を記載する団体が多かった。

(3) 他の競技団体(障がい者スポーツ団体を含む)や体育施設(管理者)、行政と情報交換を普段から行っている事例があれば具体的な内容をご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体5団体の他、指定管理者^{※19}3団体、障がい者スポーツ協会からの回答のみと極端に回答が少なく、行政や施設管理者、他の競技団体との交流が少ない状況である。

(4) 今後、他の組織と連携・協働して実施予定、または実施を検討している事業があれば具体的な内容をご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体からは7団体、障がい者スポーツ団体からは1団体の回答。指定管理者^{※19}3団体、障がい者スポーツ協会からも回答があった。
- 北海道車いすテニス協会から回答があった「ガチパラ」については、既に道内で数回開催されており、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催や、冬季オリンピック・パラリンピックの招致を検討する札幌市においては、今後、他組織と連携する取り組みにおいて新たな視点となる。
- その他、さっぽろ健康スポーツ財団と札幌振興公社との連携事業、さっぽろ健康スポーツ財団・札幌協・障がい者スポーツ協会の3者による資源の有効活用などが挙げられたが、競技団体においては現在の活動が中心となっており、他団体との連携による新たな活動については、ほとんど触れられていない状況となっている。

(5) 札幌市で活動する「スポーツボランティア^{※9}」について、貴団体として依頼したいことがあればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体から4団体、障がい者スポーツ団体から1団体、さっぽろ健康スポーツ財団、障がい者スポーツ協会の計6団体が回答。
- 競技団体については、基本的に他競技種目との連携より、各団体が自らの組織の活動に専念する傾向が強い。

◇(1)、(2)、(4)については、それぞれ「1 地域(区・町内会)」、「2 地域(スポーツ推進委員会・体育振興会)」、「3 企業・大学」、「4 競技団体(障がい者スポーツ団体を含む)」、「5 スポーツクラブ等」、「6 トップスポーツチーム・選手等」との連携・協働について記述回答を求めた。

※9 【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わることを目指す

※16 【体育振興会】…地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織

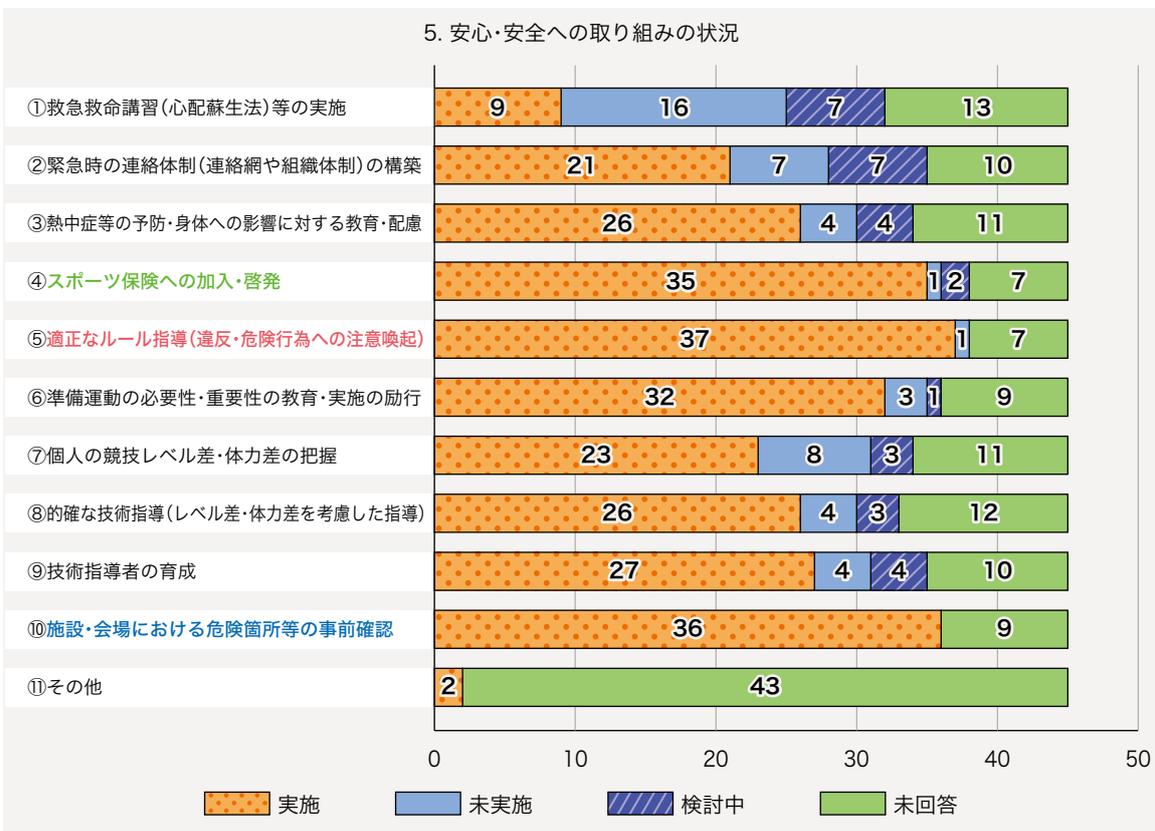
5. 安全・安心への取り組みに関すること

※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

※各項目から「実施・未実施・検討中」のいずれか一つを選択

- ① 救急救命講習(心配蘇生法)等の実施
- ② 緊急時の連絡体制(連絡網や組織体制)の構築
- ③ 熱中症等の予防・身体への影響に対する教育・配慮
- ④ **スポーツ保険への加入・啓発**
- ⑤ **適正なルール指導(違反・危険行為への注意喚起)**
- ⑥ 準備運動の必要性・重要性の教育・実施の励行
- ⑦ 個人の競技レベル差・体力差の把握
- ⑧ 的確な技術指導(レベル・体力さを考慮した指導)
- ⑨ 技術指導者の育成
- ⑩ **施設・会場における危険箇所等の事前確認**
- ⑪ その他

【回答:45団体/全63団体 回答率:67.2% 回答数:353件】



◇各項目について、それぞれ「実施」、「未実施」、「検討中」を選択、未回答については別に集計。

※19 **【指定管理者】**…公の施設の設置目的を効果的に達成するため、法令等に基づき、その施設の管理運営を行うよう、地方公共団体によって指定された、法人その他の団体

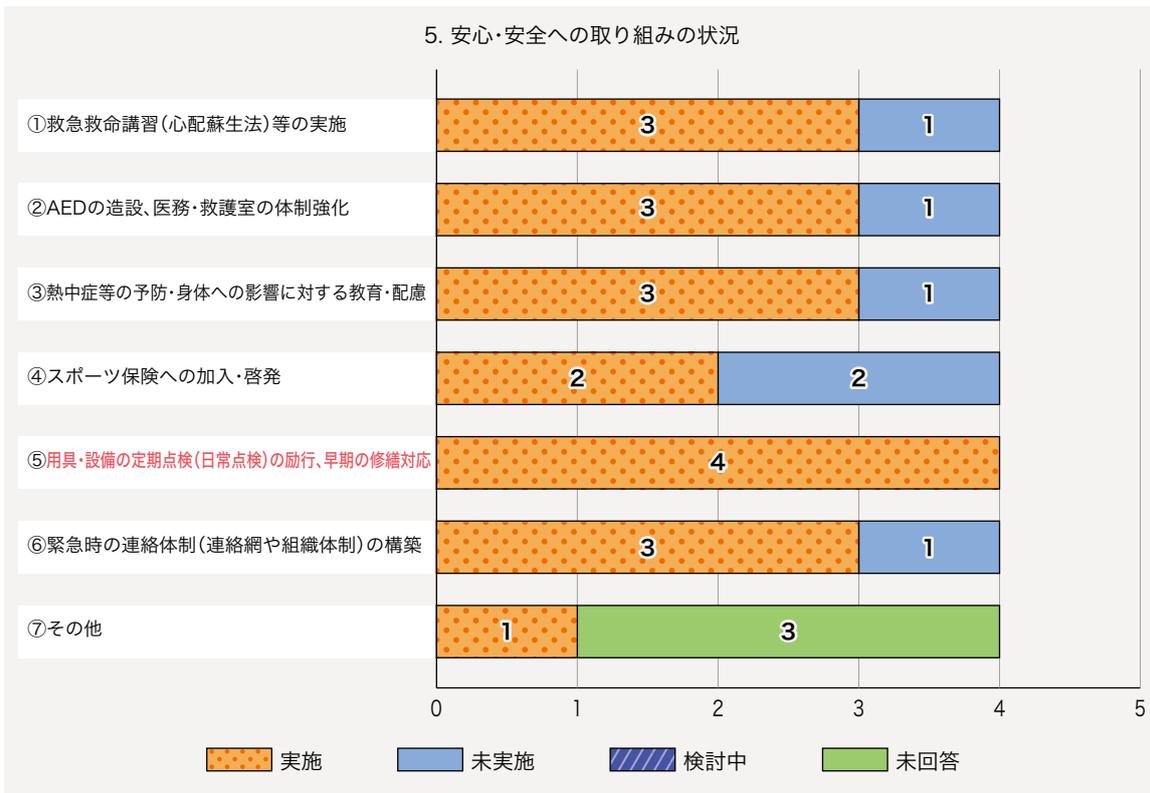
5. 安全・安心への取り組みに関すること

※指定管理者^{※19}・障がい者スポーツ協会共通設問

※各項目から「実施・未実施・検討中」のいずれか一つを選択

- ① 救急救命講習(心配蘇生法)等の実施
- ② AEDの増設、医務・救護室の体制強化
- ③ 熱中症等の予防・身体への影響に対する教育・配慮
- ④ スポーツ保険への加入・啓発
- ⑤ 用具・設備の定期点検(日常点検)の励行、早期の修繕対応
- ⑥ 緊急時の連絡体制(連絡網や組織体制)の構築
- ⑦ その他

【回答:4団体/全4団体 回答率:100% 回答数:25件】



※19 【指定管理者】…公の施設の設置目的を効果的に達成するため、法令等に基づき、その施設の管理運営を行うよう、地方公共団体によって指定された、法人その他の団体

6. 公共スポーツ施設等の利用状況について ※札幌市体育協会加盟競技団体への設問

1 貴団体が利用している公共スポーツ施設について、該当する番号すべてに○をつけてください。

(1) 体育館施設 ※複数回答

- ① 中央体育館 ② 北区体育館 ③ 東区体育館 ④ 白石区体育館
- ⑤ 厚別区体育館 ⑥ 豊平区体育館 ⑦ 清田区体育館(プール併設)
- ⑧ 南区体育館 ⑨ 西区体育館(プール併設) ⑩ 手稲区体育館
- ⑪ 中島体育センター ⑫ 宮の沢屋内競技場 ⑬ 美香保体育館(夏季)
- ⑭ 北海きたえーる(北海道立総合体育館)
- ⑮ 真駒内セキスイハイムアイスアリーナ(真駒内公園屋内競技場・夏季)
- ⑯ 利用していない

【回答:37団体/全53団体 回答率:69.8% 回答数:163件 ※未回答4件含む】

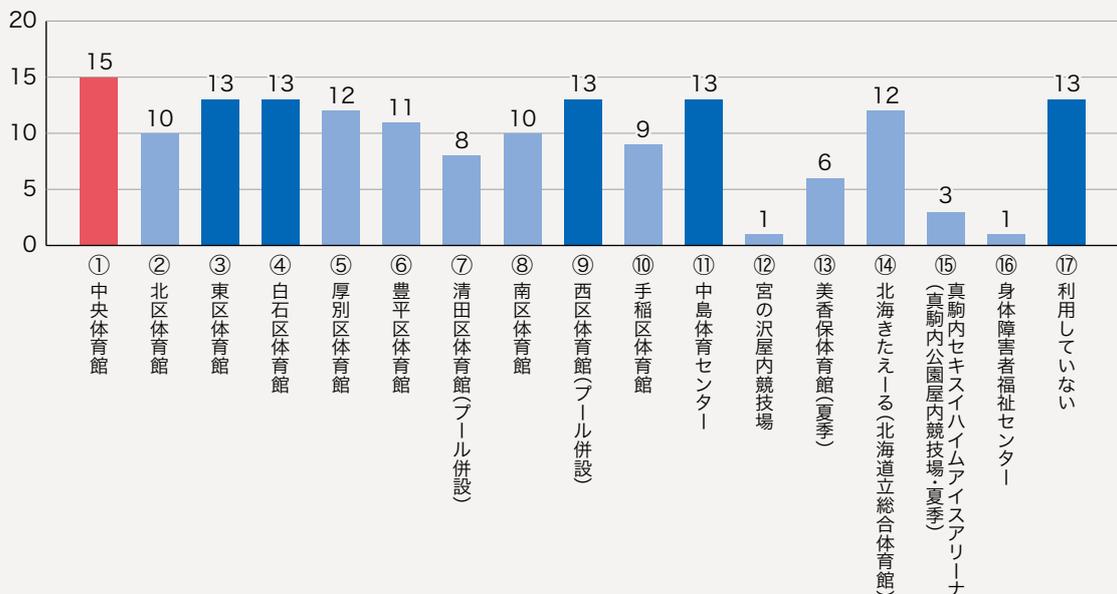
6. 公共スポーツ施設等の利用状況について ※障がい者スポーツ団体への設問

(1) 体育館施設 ※複数回答

- ① 中央体育館 ② 北区体育館 ③ 東区体育館 ④ 白石区体育館
- ⑤ 厚別区体育館 ⑥ 豊平区体育館 ⑦ 清田区体育館(プール併設)
- ⑧ 南区体育館 ⑨ 西区体育館(プール併設) ⑩ 手稲区体育館
- ⑪ 中島体育センター ⑫ 宮の沢屋内競技場 ⑬ 美香保体育館(夏季)
- ⑭ 北海きたえーる(北海道立総合体育館)
- ⑮ 真駒内セキスイハイムアイスアリーナ(真駒内公園屋内競技場・夏季)
- ⑯ 身体障害者福祉センター ⑰ 利用していない

【回答:4団体/全10団体 回答率:40.0% 回答数:4件】

6-1. 公共スポーツ施設等の利用状況(1)体育館施設の利用状況



6. 公共スポーツ施設等の利用状況について

※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

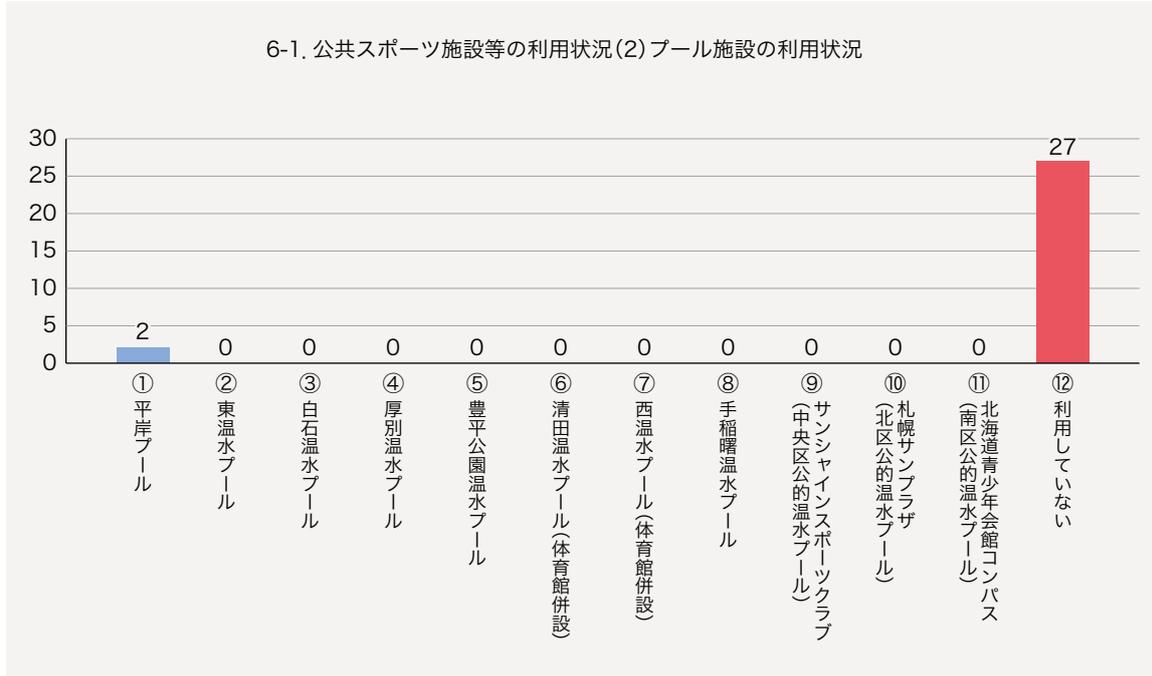
1 貴団体が利用している公共スポーツ施設について、該当する番号すべてに○をつけてください。

(2) プール施設 ※複数回答

- ① 平岸プール ② 東温水プール ③ 白石温水プール ④ 厚別温水プール
- ⑤ 豊平公園温水プール ⑥ 清田温水プール(体育館併設)
- ⑦ 西温水プール(体育館併設) ⑧ 手稲曙温水プール
- ⑨ サンシャインスポーツクラブ(中央区公的温水プール)
- ⑩ 札幌サンプラザ(北区公的温水プール)
- ⑪ 北海道青少年会館コンパス(南区公的温水プール) ⑫ **利用していない**

【回答:29団体/全63団体 回答率:46.0% 回答数:45件 ※未回答16件を含む】

6-1. 公共スポーツ施設等の利用状況(2) プール施設の利用状況



6. 公共スポーツ施設等の利用状況について

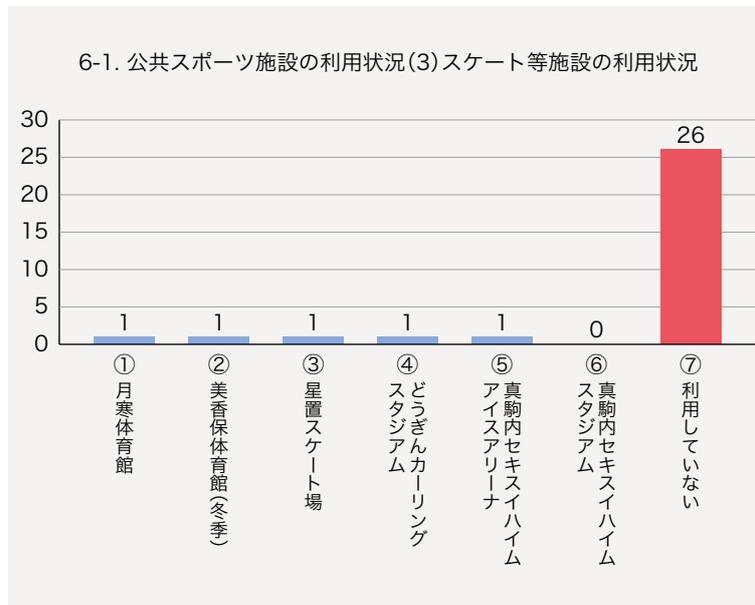
※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

1 貴団体が利用している公共スポーツ施設について、該当する番号すべてに○をつけてください。

(3)スケート等施設 ※複数回答

- ① 月寒体育館 ② 美香保体育館(冬季) ③ 星置スケート場
- ④ どうぎんカーリングスタジアム
- ⑤ 真駒内セキスイハイムアイスアリーナ(真駒内公園屋内競技場・冬季)
- ⑥ 真駒内セキスイハイムスタジアム(真駒内公園屋外競技場・冬季)
- ⑦ **利用していない**

【回答:28団体/全63団体 回答率:44.4% 回答数:48件 ※未回答17件を含む】



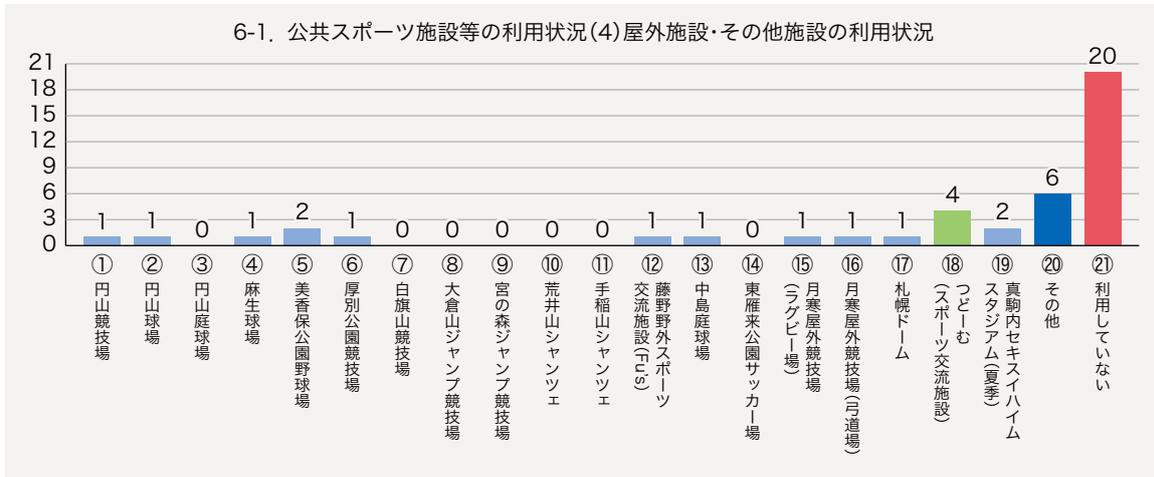
6. スポーツ施設等の利用状況について ※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

1 貴団体が利用している公共スポーツ施設について、該当する番号すべてに○をつけてください。

(4)屋外施設・その他 ※複数回答

- ① 円山競技場 ② 円山球場 ③ 円山庭球場 ④ 麻生球場
- ⑤ 美香保公園野球場 ⑥ 厚別公園競技場 ⑦ 白旗山競技場
- ⑧ 大倉山ジャンプ競技場 ⑨ 宮の森ジャンプ競技場 ⑩ 荒井山ジャンツェ
- ⑪ 手稲山ジャンツェ ⑫ 藤野野外スポーツ交流施設(Fu's)
- ⑬ 中島庭球場 ⑭ 東雁来公園サッカー場
- ⑮ 月寒屋外競技場(ラグビー場) ⑯ 月寒屋外競技場(弓道場)
- ⑰ 札幌ドーム ⑱ つどーむ(スポーツ交流施設)
- ⑲ 真駒内セキスイハイムスタジアム(真駒内公園屋外競技場・夏季)
- ⑳ その他 ㉑ 利用していない

【回答:35団体/全63団体 回答率:55.6% 回答数:53件 ※未回答10件を含む】



6. 公共施設スポーツ施設等の利用状況について

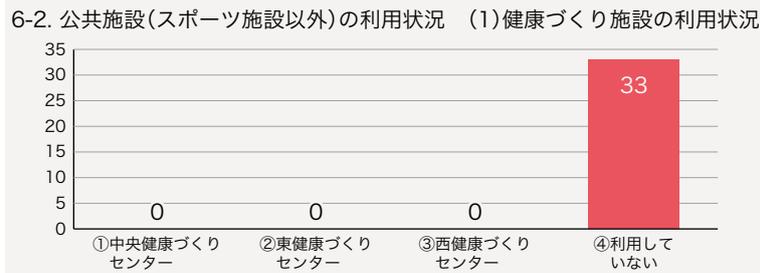
※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

2 貴団体が利用している公共施設(スポーツ施設以外)について、該当する番号すべてに○をつけるか、施設名をご記入ください。

(1)健康づくり施設 ※複数回答

- ① 中央健康づくりセンター ② 東健康づくりセンター ③ 西健康づくりセンター
- ④ 利用していない

【回答:33団体/全63団体 回答率:52.4% 回答数:45件 ※未回答12件を含む】



第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
第7章

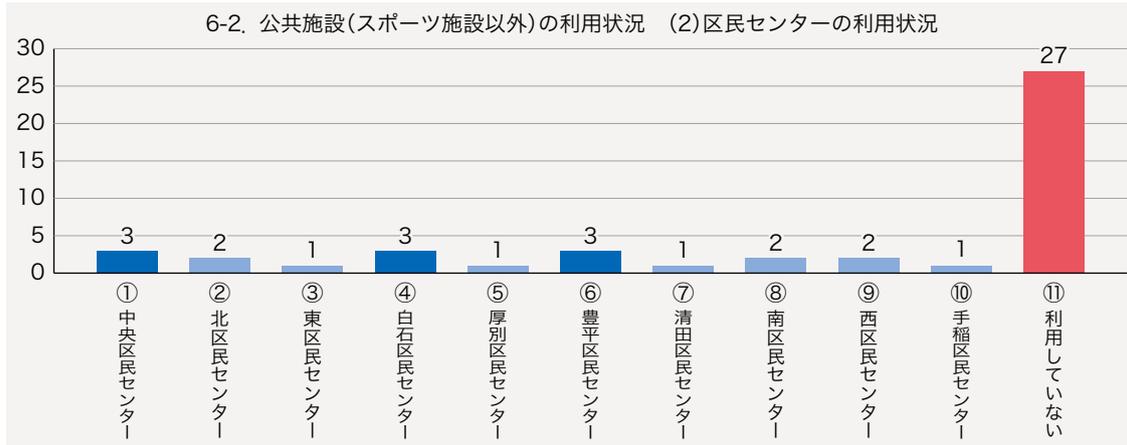
6. スポーツ施設等の利用状況について ※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

2 貴団体が利用している公共施設(スポーツ施設以外)について、該当する番号すべてに○をつけるか、施設名をご記入ください。

(2)区民センター ※複数回答

- ① 中央区民センター ② 北区民センター ③ 東区民センター ④ 白石区民センター
- ⑤ 厚別区民センター ⑥ 豊平区民センター ⑦ 清田区民センター
- ⑧ 南区民センター ⑨ 西区民センター ⑩ 手稲区民センター
- ⑪ 利用していない

【回答29団体 / 全63団体 回答率:46.1% 回答数:57件 ※未回答11件を含む】

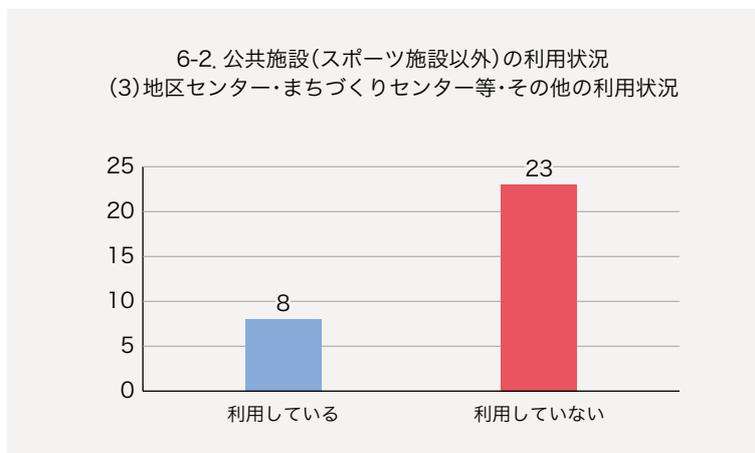


6. スポーツ施設等の利用状況について ※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

2 貴団体が利用している公共施設(スポーツ施設以外)について、該当する番号すべてに○をつけるか、施設名をご記入ください。

(3)地区センター・まちづくりセンター等・その他 ※複数記述回答

【利用団体数:8団体 未利用団体:23団体】



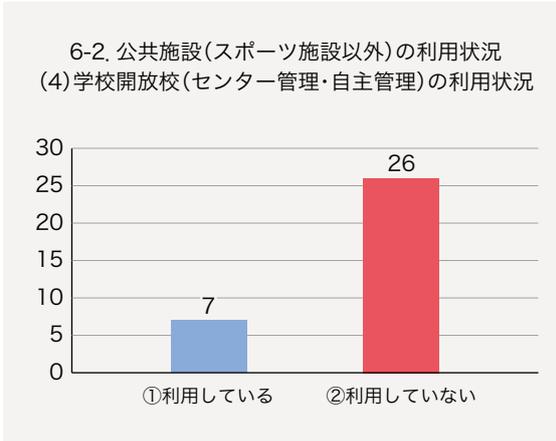
6. スポーツ施設等の利用状況について ※札幌市体育協会加盟競技団体への設問

2 貴団体が利用している公共施設(スポーツ施設以外)について、該当する番号すべてに○をつけるか、施設名をご記入ください。

(4)学校開放校(センター管理校・自主管理校)

- ① 利用している ② **利用していない**

【回答35団体 / 全53団体 回答率:66.0% 回答数:41件 ※未回答11件を含む】



【利用団体数:7団体 未利用団体:26団体】

【回答のあった学校開放施設】

札幌緑小学校、苗穂小学校、東白石小学校、
新陵東小学校、円山小学校、

※その他各クラブ単位で各地区小学校・
中学校を利用されている団体あり
(学校名等不明)

6. スポーツ施設等の利用状況について ※障がい者スポーツ団体への設問

2 貴団体が利用している公共施設(スポーツ施設以外)について、該当する番号すべてに○をつけるか、施設名をご記入ください。

(4)学校開放校(みなみの杜高等支援学校・センター管理校・自主管理校)

※複数記述回答

① 市立みなみの杜高等支援学校について

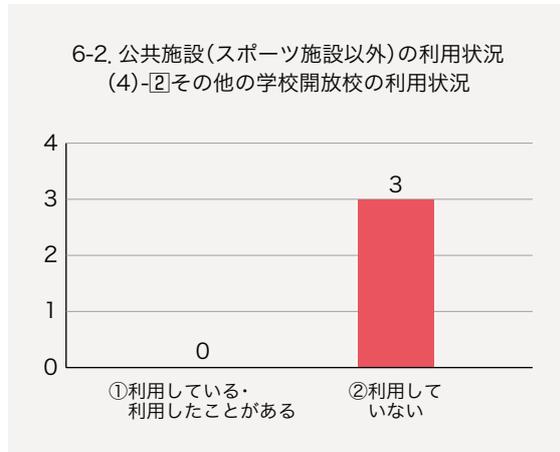
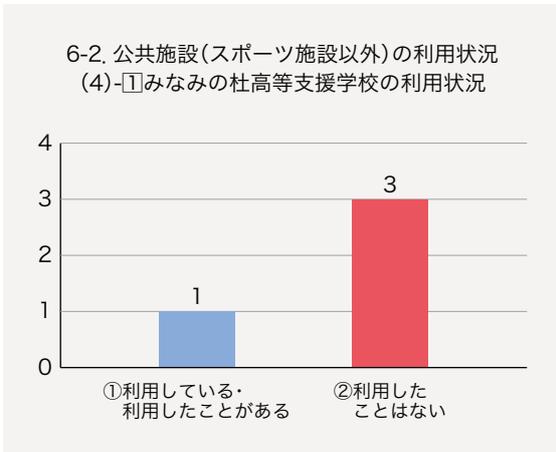
- ① 利用している・利用したことがある ② **利用したことはない**

② その他の学校開放について

- ① 利用している・利用したことがある ② **利用していない**

※利用している・利用したことがある場合は、「主に利用している学校名」を3校まで記述

【回答4団体 / 全10団体 回答率:40% 回答数:4件 ※(4)-②において未回答1件を含む】



7. 利用施設に関すること

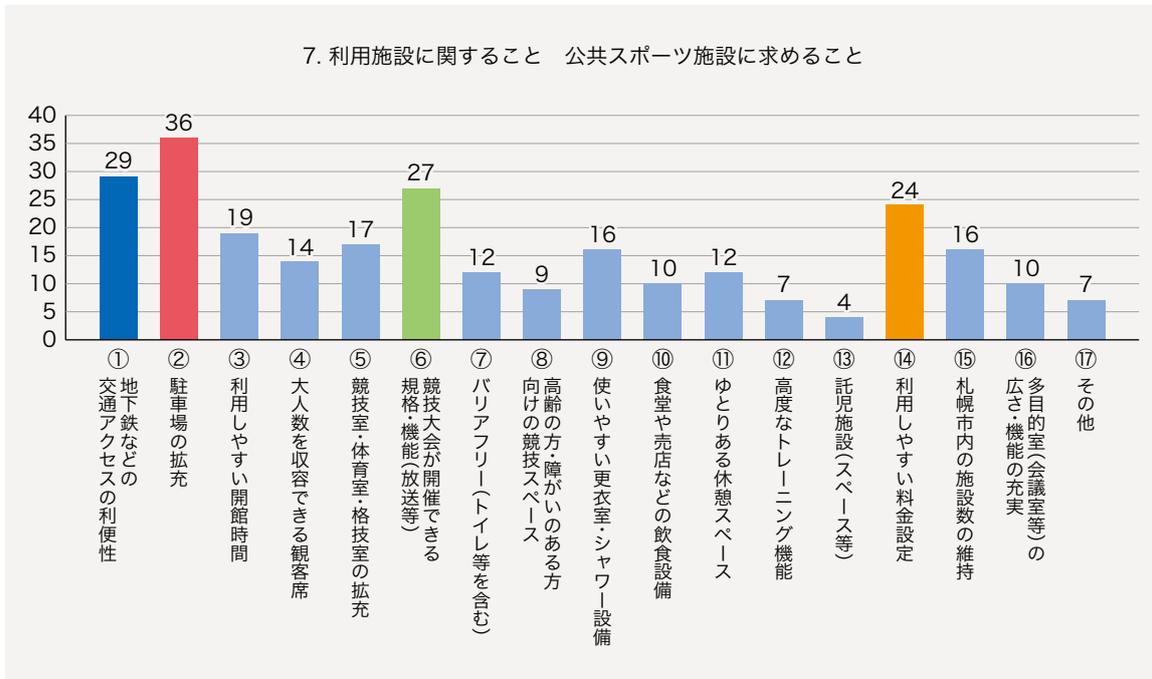
※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

貴団体が公共スポーツ施設に求めることについて、該当する番号すべてに○をつけてください。

※複数回答

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| ① 地下鉄などの交通アクセスの利便性 | ② 駐車場の拡充 |
| ③ 利用しやすい開館時間 | ④ 大人数を収容できる観客席 |
| ⑤ 競技室・体育室・格技室の拡充 | ⑥ 競技大会が開催できる規格・機能(放送等) |
| ⑦ バリアフリー ^{※5} (トイレ等を含む) | ⑧ 高齢の方・障がいのある方向けの競技スペース |
| ⑨ 使いやすい更衣室・シャワー設備 | ⑩ 食堂や売店などの飲食設備 |
| ⑪ ゆとりある休憩スペース | ⑫ 高度なトレーニング機能 |
| ⑬ 託児機能(スペース等) | ⑭ 利用しやすい料金設定 |
| ⑮ 札幌市内の施設数の維持 | ⑯ 多目的室(会議室等)の広さ・機能の充実 |
| ⑰ その他 | |

【回答:41団体/全63団体 回答率:65.1% 回答数:273件 ※未回答4件含む】



※5 【バリアフリー】…高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がい無くすこと

8. 民間施設、企業等が所有する施設の利用について

※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

1 貴団体が利用している民間施設(スポーツクラブ・企業・大学の体育館等)について、利用している施設名をご記入ください。

※複数記述回答

【回答記入団体数: 15団体 / 全63団体】

【回答のあった利用している会場】

■高校の施設

山の手高等学校、立命館慶祥中学校・高等学校体育館、札幌東豊高等学校道場・体育館

■大学の施設

北海道科学大学体育館、北海道科学大学クライミングボード、天使大学中沼グラウンド、札幌学院大学、札幌国際大学、北海道東海大学、北海道大学

■多目的スペース(施設)

N T T セミナーセンター、札幌市商工会議所グラウンド

■専用スペース(施設)

秀岳荘クライミングボード(ウォール)、浦臼国際散弾銃射撃場、ときわぎ会館レスリング道場、太陽G少年野球場、自衛隊施設、銭函ヨットハーバー、厚別パークボウル、総合レジャーサンコーボウル、サッポロオリンピックボウル

■スポーツクラブ

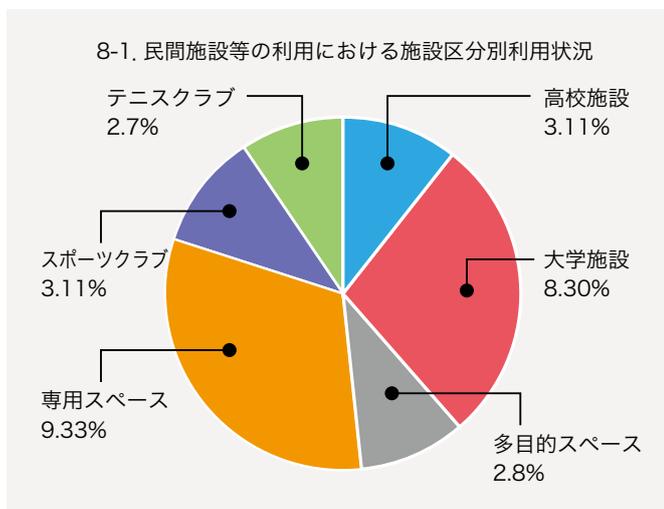
スポーツクラブZIP、KONAMI、イーアス

■テニスクラブ

あけぼのテニスクラブ、スウイング89

【区分別】

高校施設	3	11.1%
大学施設	8	29.6%
多目的スペース	2	7.4%
専用スペース	9	33.3%
スポーツクラブ	3	11.1%
テニスクラブ	2	7.4%
合計	27	



8. 民間施設、企業等が所有する施設の利用について

※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

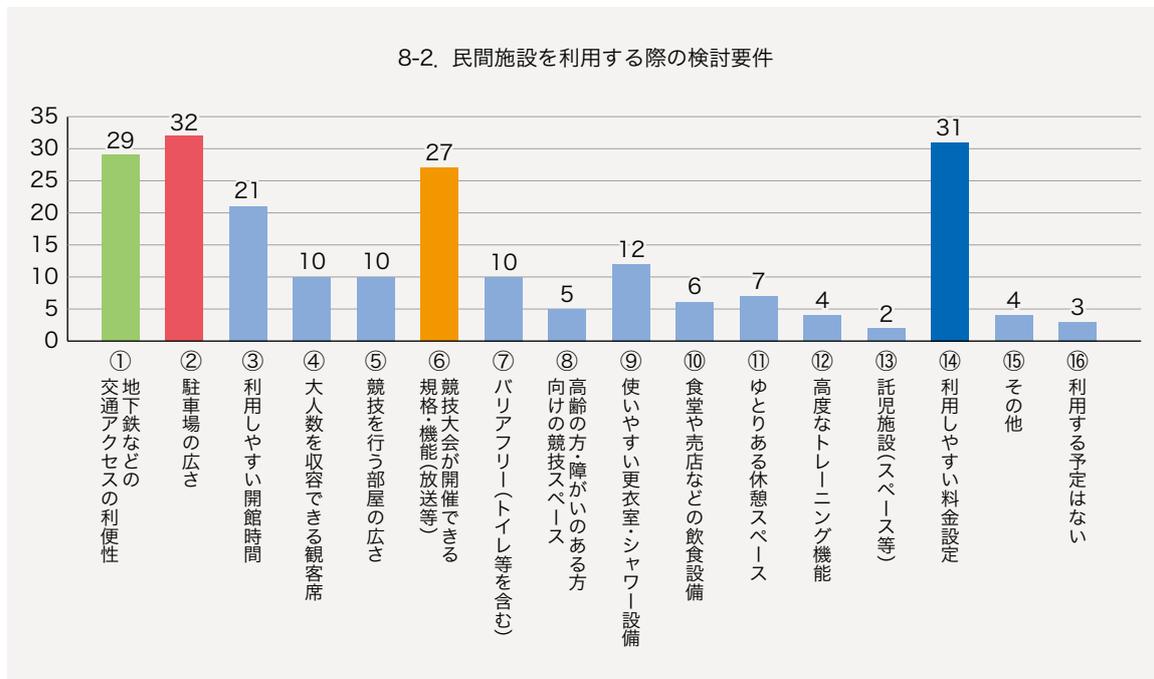
2 ※「現在民間施設の利用がない団体もご回答ください」

貴団体が今後、民間施設を利用する、または利用する可能性を検討する際の利用条件等についてお聞きします。該当する番号すべてに○をつけてください。

※複数記述回答

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| ① 地下鉄など交通アクセスの利便性 | ② 駐車場の広さ |
| ③ 利用しやすい開館時間 | ④ 大人数を収容できる観客席 |
| ⑤ 競技を行う部屋の広さ | ⑥ 競技大会が開催できる規格・機能(放送等) |
| ⑦ バリアフリー ^{※5} (トイレ等を含む) | ⑧ 高齢の方・障がいのある方向けの競技スペース |
| ⑨ 使いやすい更衣室・シャワー設備 | ⑩ 食堂や売店などの飲食設備 |
| ⑪ ゆとりある休憩スペース | ⑫ 高度なトレーニング機能 |
| ⑬ 託児機能(スペース等) | ⑭ 利用しやすい料金設定 |
| ⑮ その他 | ⑯ 利用する予定はない |

【回答:43団体/全63団体 回答率:68.3% 回答数:215件 ※未回答2件を含む】



※5 【バリアフリー】…高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がい無くすこと

9. 公共スポーツ施設の維持・保全について

※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

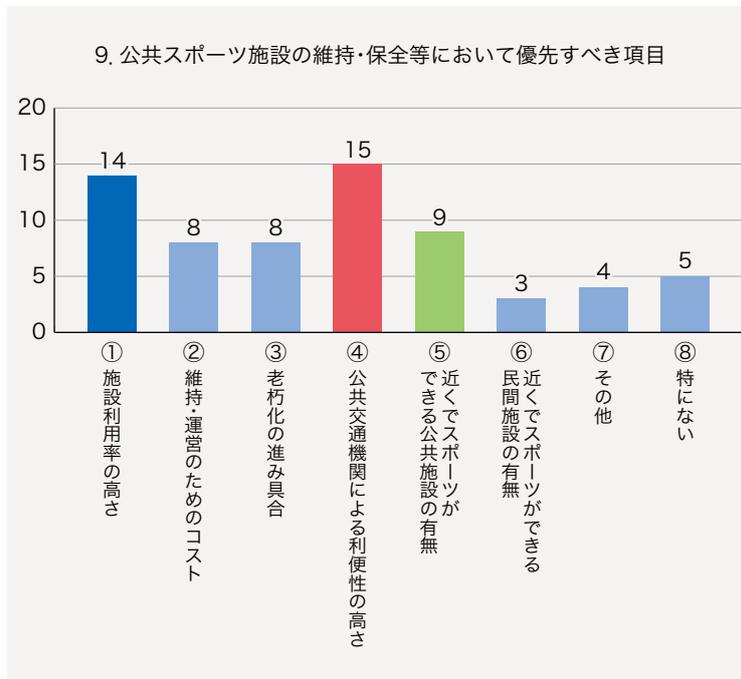
札幌市の公共スポーツ施設は近い将来一斉に建物の更新時期を迎えることになり、これらに必要となる費用の増大が見込まれています。このことを踏まえ、これからも市民がスポーツに親しめる環境を維持していくために、札幌市の公共スポーツ施設についてどのようなことを優先して整備していくか、貴団体の考えに最も近い番号に1つだけ○をつけてください。

※単数回答

- ① 施設の利用率の高さ
- ② 維持・運営のためのコスト
- ③ 老朽化の進み具合
- ④ 公共交通機関による利便性の高さ
- ⑤ 近くでスポーツができる公共施設の有無
- ⑥ 近くでスポーツができる民間施設の有無
- ⑦ その他
- ⑧ 特にない

【回答:45団体/全67団体 回答率:67.1% 回答数:70件

※一部団体(11団体)が複数回答、未回答4件を含む】



6 「これからの私たちとスポーツを考えるワークショップ」結果概要

■実施日時

平成30年(2018年)7月22日(日) 14:00~17:00

■会場

札幌市中央区北2条西7丁目 北海道立道民活動センターかでの2・7
710会議室

■参加人数

34人(うち、札幌市立高校生から13人)

■ワークショップ実施の目的

札幌市スポーツ推進計画の改定版策定にあたり、市民の運動・スポーツ活動などに関するニーズや課題を聴取し、計画内容に市民意見を反映することを目的とする。

■実施手法

無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人に募集チラシを郵送し、参加を希望された方21人と、札幌市立高校生から募集し参加を希望した13人を合わせた34人で実施しました。

また、参加者を5~6人のグループに分け、大テーマ1、大テーマ2について意見交換を行いました。

大テーマ1 「広く市民がスポーツに親しむために必要なこと」

〈小テーマ〉

- ①「健康」 ×スポーツ
- ②「仕事・家事・子育て・介護」×スポーツ
- ③「学び・教育・学校」 ×スポーツ
- ④「多様性・共生」 ×スポーツ
- ⑤「地域や経済の活性化」 ×スポーツ
- ⑥「冬」 ×スポーツ

大テーマ2 「広く市民がスポーツに親しむために必要な施設や場所」

〈小テーマ〉

- ①公共スポーツ施設がどんな場所や利用環境にあると利用したいか。
- ②公共スポーツ施設以外でスポーツを行う場所として、どんなところが利用できるとよいか。

■ワークショップの結果

大テーマ1 広く市民がスポーツに親しむために必要なこと

各グループに①～⑥の小テーマを設定し、各テーマについて意見交換を行いました。意見交換で出た意見は下記のとおり①～④に分類し、主な意見内容をまとめました。

小テーマ	意見の分類
小テーマ1:「健康」×スポーツ	①ライフステージ ^{※2} 別にみる、スポーツに親しむために必要なこと(高齢者世代、勤労・子育て世代、子ども・学生世代)
小テーマ2:「仕事・家事・子育て・介護」×スポーツ	
小テーマ3:「学び・教育・学校」×スポーツ	
小テーマ4:「多様性・共生」×スポーツ	②多様性・共生の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと
小テーマ5:「地域や経済の活性化」×スポーツ	③地域や経済の活性化の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと
小テーマ6:「冬」×スポーツ	④「冬(ウインタースポーツ)」の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと

①ライフステージ^{※2}別にみる、スポーツに親しむために必要なこと

(各世代における傾向)

- 高齢者世代は、身近で安全にスポーツできる環境を求める声が多い。
- 勤労・子育て世代は、多忙な日常の中でスポーツするきっかけや、“ながら時間”“すき間時間”の活用に向けた発想の転換、家族や周囲を含めてスポーツに親しめる環境づくりなどが必要とされている。
- 子ども・学生世代は、スポーツを楽しめる環境づくりと指導者の育成、大人(両親など)の働きかけ、スポーツ施設利用にあたり費用負担の軽減などが必要とされている。

●高齢者世代

【小テーマ1:「健康」×スポーツで出た意見を中心に整理】

項目	妨げとなること	必要なこと
スポーツできる身近な場所	・スポーツできる身近な場所が少ない(高齢なので近くに施設があるとよい)。	・身近な施設の利便性向上(学校開放、公共体育館等の増加や利用日時の拡大)など
安全面での配慮	・高齢者には危険な箇所(段差など)がある。	・バリアフリー ^{※5} 整備、安心してスポーツできるルールづくりなど

※2 **【ライフステージ】**…人間の一生において節目となる出来事(出生、入学、卒業、就職、結婚、出産、子育て、退職など)によって区分される生活環境の段階

※5 **【バリアフリー】**…高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がい無くすこと

●勤労・子育て世代

【小テーマ2:「仕事・家事・子育て・介護」×スポーツで出た意見を中心に整理】

項目	妨げとなること	必要なこと
きっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> 仕事や家事などで疲れてしまい、スポーツする気持ちになれない。 	<ul style="list-style-type: none"> きっかけづくり(声掛け、お誘いなど) スポーツの楽しさを知ること スポーツを教えてもらうことなど
スポーツする時間づくり(意識の転換)	<ul style="list-style-type: none"> スポーツする時間をつくるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事や家事の中でもスポーツすることができるという意識の転換(例:通勤や通学で歩くこともスポーツ) 通勤・通学・家事・子育てに運動を取り入れること 家でもできるスポーツをやってみることなど
みんなでスポーツできる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> スポーツをしようとしたときに、子育てせずに遊びに行くと家族に思われてしまう。 スポーツするタイミングが合わない(自分がスポーツできる時間に施設や仲間と時間が合わない)。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒にスポーツができるイベントや場所、きっかけづくり 利用時間や利用内容に自由度がある施設・環境づくりなど
託児の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> スポーツしている間に預けられる場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを預けられたり、遊ばせられる環境づくりなど

●子ども・学生世代

【小テーマ3:「学び・教育・学校」×スポーツで出た意見を中心に整理】

項目	妨げとなること	必要なこと
学校の部活	<ul style="list-style-type: none"> 部活での指導が厳しく、練習がハードなこと(学業との両立が難しくなってしまう) 部活や塾などで忙しく、部活以外でスポーツする時間がとりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活の練習日を減らし、生徒の負担を減らすこと 指導者の適切な資質と高い人間性(スポーツのキャリアだけが重要ではない) 部活に対する親と教師の理解 スポーツを楽しめる環境づくり(部活で関わったスポーツを長く続けたいと思えること) 大会で勝つなどの経験(スポーツを続けたいと思うきっかけとなる) 部活と体育の中間程度の位置付けで、兼部できる仕組み など
学校の授業、行事	<ul style="list-style-type: none"> 運動嫌いの人が楽しめない。 	—
施設の利用料	<ul style="list-style-type: none"> 学生は、スポーツ施設の利用料が高いと利用しにくい。高校生は有料であるため、利用しなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共スポーツ施設の利用にあたり、高校生も無料にするなど費用負担の軽減
大人の意識	—	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにスポーツを勧めるなど、大人の意識が変わること(親からの影響でスポーツを始めることも多い) など
その他	<ul style="list-style-type: none"> 海外では、スポーツを楽しむことが重要とされている。学校教育(体育)と社会体育のあり方の問題が根底にあると思う。 スポーツの基本動作(投げる、走るなど)ができない子どもが多いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昔の考え方を大切にしながらも、現代のニーズに合わせたスポーツに対する考え方もつなど

②多様性・共生の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと

【小テーマ4:「多様性・共生」×スポーツで出た意見を中心に整理】

- 誰もが一緒にスポーツできる場所や利用環境、機会(イベント等)、意識啓発を行うことが必要とされている。
- 障がいのある人や外国人などに向け、スポーツ施設の利用条件等に関する情報提供が必要とされている

項目	妨げとなること	必要なこと
障がいのある人も一緒にスポーツできる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子供がスポーツをする際に声を上げて周囲を驚かせてしまい一緒に遊びにくい。 ・障がいがある人も一緒に使えるスポーツ施設がない。また、障がい者用設備等を分けると対応できる施設が少なくなってしまうと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいがある人でも一緒に利用できる施設整備 ・一緒に利用することが当たり前環境づくり ・車いすバスケットボールを体験できるなどの機会があると様々な人ができるようになる。など
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人が利用できる施設がどこにあるのかわからない。 ・外国人にわかりやすい情報が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいがある人や外国人などが利用できる施設に関する情報提供 など
皆ができるスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・“女性はヨガ”、“高齢者は太極拳”などの固定観念がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの有無や性別、年代など問わず、一同に会してスポーツできる施設や新しいスポーツの創造

③地域や経済の活性化の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと

【小テーマ5：「地域や経済の活性化」×スポーツで出た意見を中心に整理】

- 地域の活性化について、スポーツができる地域の身近な場所、様々な人が楽しむことができる機会、情報提供が必要とされている。
- 経済の活性化について、観光客やアウトドアスポーツ客の入込が期待できる自然(登山道など)や関連施設の整備、外国語対応などが必要とされている。

項目	妨げとなること	必要なこと
地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> • 雪かきなどの作業でスポーツする時間がとりにくい。 • 地域の人を外に出られるようなきっかけや仕組みが少ない。 • スポーツイベントの情報は、回覧では十分な効果を得にくい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 会社や学校などの体育行事に地域住民が参加できる仕組み • 会社や地域でチームをつくり、スポーツ大会などを開催すること • カーリングは性別や年代等を限定することなく多くの人が取り組みやすいスポーツだと思うので、町内会などで取り組むと良い。 • 子どもから高齢者まで楽しむことができる場所 • スポーツできる場所を身近につくること(民有地と連携してもよい) • 体育館が使える日時の拡大 • 体育館などを様々な人が利用できるよう周知すること • 案内チラシを戸別に配付すること • 子どもの参加数を増やすため、イベントへの参加募集を学校から情報提供すること • 町内会など、身近に教えてくれる人の存在など
経済の活性化(観光振興、アウトドアなど)	<ul style="list-style-type: none"> • 登山道などの整備が十分ではない。郊外の自然は外国人からの需要もあるが、整備が追い付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 観光地を巡るウォーキングコース • 郊外の自然を生かすため、山道やビューポイントの整備と、外国語案内板や行程表の整備 • ロングトレイルやサイクリング等に取り組む人のため、トイレ、コース、室内競技場の整備など
経済の活性化(施設配置)	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの集客を見込めるスポーツ施設(パークゴルフ、サイクリングなど)にアクセスするための交通手段に課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 行きやすいところ、わかりやすい所への施設配置 など

④冬(ウインタースポーツ)の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと

【小テーマ6:「冬」×スポーツで出された意見・アイデアを中心に整理】

- ウインタースポーツの実施に必要な費用の負担軽減、交通利便性の向上に関する取組、気軽にウインタースポーツができる取組(参加しやすいスキー教室など)が必要とされている。
- スキー場で楽しめる工夫や、冬(雪)のスポーツに対する発想の転換についてアイデアがみられる。
- そのほか、ウインタースポーツにおける怪我の予防講習など、オフシーズンにおける取組に関するアイデアもみられる。

項目	妨げとなること	必要なこと
大きな費用負担	<ul style="list-style-type: none"> ウェアや用具などの購入費、用具レンタル料、リフト代などの負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 気軽にできるよう、レンタルできる用具の種類を充実させたり、レンタル料金を安くしたり無料にすること ウェアや用具のリサイクルやおさがり制度など
交通	<ul style="list-style-type: none"> スキー場などが遠く、交通の便が悪くて行きにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎バスの本数や停留所の増加 身近な公園に雪山をつくること など
天候	<ul style="list-style-type: none"> 寒い。 天候に左右されやすい。 	—
体力や怪我	<ul style="list-style-type: none"> 高齢で足腰が弱くなってきているため、怪我が心配である。 シーズンオフの期間が長いので、冬期以外のスポーツと比べて怪我をしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> オフシーズンに怪我を防止する講習会などの開催 など
個人の意識や技術	<ul style="list-style-type: none"> 一人では行きづらい。 子供に教えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 気軽に参加できるスキー教室の充実(子どもだけでなく親向けもあると良い) 初心者でも参加できるサークルや教室等に関する情報提供 有名選手と一緒に競技を行えるイベント等によるきっかけづくり など
その他	—	<ul style="list-style-type: none"> 札幌の雪質が良いことに関する積極的なPR スキー場などに行って一日中楽しめる工夫(ロッジの飲食メニューを充実させるなど) 家の中での運動 自宅の雪かきをスポーツとして考えることなど

⑤その他、スポーツに親しむために必要なこと

【複数の小テーマに関連して出された主な意見・アイデア】

- 施設・利用環境の改善、安全なスポーツ環境づくりのためのルールづくり、情報提供、札幌の強みを生かしたスポーツを広く推進することなどが必要とされている。
- 個人レベルでの意識の転換が必要であるという意見もみられる。

項目	妨げとなること	必要なこと
施設・利用環境	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツできる施設が身近にない。または施設まで遠い、不便。 ・スポーツ施設が古い。 ・施設数が少なく、混んでいることが多い(カーリング場)。 ・公園では球技ができない。 ・天候が悪い場合、スポーツできる場所が限られる。 ・スポーツ施設利用料が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄に自転車を乗り入れられるようにすること(駅から離れている場所にも行きやすい) ・気軽に利用できる料金設定 ・お金をかけずに親しめるスポーツなど
安心安全	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用時に危険を感じることもある(公共体育館等の開放時における衝突など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共体育館のルールを決めて市民に伝えること ・子どもから大人まで安心安全にスポーツを行える環境づくり
個人の意識の転換	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツしようと思っても面倒に感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それほど厳しくない目標を設定し、気持ちの余裕をもって無理なく取り組むこと ・日常動作の中で簡単に体を動かす心がけなど
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなスポーツがあるかわからない。 ・転勤などで引っ越した際、どこでどんなスポーツができるかわからない。 ・安全な散歩コースがわからない。 ・スポーツ施設が込み合うことが多いが、実際に行くまで混雑状況がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を広報や町内会等を通じて市民に伝えること ・散歩マップの作成 など
札幌の強みを生かしたスポーツの推進	—	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌の強みを生かしたスポーツ(アイスホッケー、カーリングなど)を小中学校で教えたり、用具・施設を市民に無料で貸し出すことなど

大テーマ2 「広く市民がスポーツに親しむために必要な施設や場所」

各グループで以下の小テーマ1、2について意見交換を行いました。

意見交換の結果を小テーマごとにまとめました。

小テーマ
小テーマ1：公共スポーツ施設がどんな場所や利用環境にあると利用したいか。
小テーマ2：公共スポーツ施設以外でスポーツを行う場所として、どんなところが利用できるとよいか。

【小テーマ1：公共スポーツ施設がどんな場所や利用環境にあると利用したいか。】

- 施設配置については、地下鉄やJRの駅などから行きやすい場所のほか、買い物などほかの目的と合わせて利用できる利便性の高い場所が望まれている。
- 料金の引き下げを望む声が多い。単純な引き下げだけでなく、条件つきやイベント要素をもたせたアイデアもみられる。
- そのほか利用環境については、利用時間の拡張、運動器具類の利便性向上、施設利用者の調整、ルールの順守、一人でも利用しやすい工夫、スポーツ教室やイベントの充実、託児などが望まれている。
- 施設の利用方法や利用状況について、わかりやすい情報提供を求める声が見られる。

項目	内容
施設配置	<ul style="list-style-type: none"> ●駅(バス、地下鉄、JRなど)や学校の近くにあると使いやすい。 ●地下鉄から離れたところに立地している場合、送迎バスがあると良い。 ●まちなかなど、交通の便利な場所にあると良い。 ●サイクリングロードの近くにあると良い。 ●ショッピングモールやスーパー、百貨店と併設または隣接していると家族連れは利用しやすい。 ●大学の構内にあると良い。 ●1区に1つではなく、もう少し増やしてほしい(施設に近い人とそうでない人とで不公平に感じる など)
駐車場/駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> ●駐車場が充実していると良い。 ●駐輪場が広くなってほしい。 など
利用料金	<ul style="list-style-type: none"> ●利用料金もう少し安くなると良い。 ●温水プールの一般料金が高い。 ●高校生も無料にしてほしい(中学生は無料だったが、高校生は有料になったので、利用しにくくなった)。 ●複数人で利用すると安くなるなど、料金の割引があると他の人を誘って利用しやすい。 ●曜日によって対象となる属性の人が無料で利用できる、イベント要素のある制度があるとよい。 ●公共施設の民営化を進め、より安く、より使いやすくなると良い。 など
利用時間	<ul style="list-style-type: none"> ●利用時間帯を拡張してほしい。 ●仕事をしている人も利用しやすい時間帯(早朝、夜間)に開放してほしい。 ●予約なしでも利用できる施設があると良い。 など
用具・器具類・設備等	<ul style="list-style-type: none"> ●用具貸出しをしてほしい。 ●備品レンタルを安くしてほしい。 ●古くなっている器具もあるので、定期的にリニューアルしてほしい。 ●靴置き場がない施設があるので、設置してほしい。
ルール等	<ul style="list-style-type: none"> ●白石区の施設は専用の靴が必要で面倒だった。どんな靴でも利用できると良い。 ●親切な係員を配置し、利用規則の見直しをしてほしい(以前、プール利用の際に眼鏡着用について注意された際に代替案の提示もなく不可とされた)。 ●体育館で、利用時間が決められていてもオーバーして利用している人もいるため、ルールを徹底してほしい。 など

項目	内容
利用者調整	<ul style="list-style-type: none"> 一定数以上は団体扱いとし、一般開放時の占有を解消してほしい。 利用する競技によっては、他区からの利用者も多く集まるため、調整が必要である。 年齢で利用が分かれていると使いやすい。 など
単独利用	<ul style="list-style-type: none"> グループで行うスポーツ以外では利用しにくく、特定のスポーツには入りにくい。 一人で行っても一緒にスポーツする人がいない。一人で行って気軽に楽しめる環境づくりが必要である。 一緒にスポーツできる人をコーディネートする人がいるなど など
スポーツ教室	<ul style="list-style-type: none"> 初心者向けのスポーツ教室が開かれると良い。 ・子ども(小学生以下)が通える教室を充実させてほしい。 教室の振替制度があると良い(現状、祭日が休館日に重なると利用できる回数が減ってしまう)。 など
託児など	<ul style="list-style-type: none"> 託児や遊ばせられるキッズスペースがあると良い。
イベント等	<ul style="list-style-type: none"> 公園で行われる子ども向けイベントを充実させてほしい。 ・みんなで楽しめるイベントがあると良い。 など
情報	<ul style="list-style-type: none"> 利用可能曜日や時間、利用方法などわかりやすい情報提供が必要である(現状は個別施設ごとにホームページを見る必要がある)。 ・空き状況、混雑状況などの情報が得られるとよい。 どこの施設でどんなスポーツができるのか、わかりやすい方法で情報提供してほしい。 障がいがある子どもに水泳を教えてくれる教室を知りたいが情報が少ないので情報提供してほしい。 など

【小テーマ2:公共スポーツ施設以外でスポーツを行う場所として、どんなところが利用できるとよいか。】

- 既存のスポーツ施設ほか、ショッピングセンターなどの店舗や各種施設のスペース等を活用するアイデアがみられる。
- 屋外については、公園利用を希望している人が多くみられる。

項目	内容
既存のスポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> 冬期間、ゴルフ場を歩くスキーに利用したい(実際にある)。 民間スポーツ施設の利用料や整備費を補助し、利用を促進してはどうか。 24時間利用できる民間スポーツ施設 など
店舗等	<ul style="list-style-type: none"> インターネットカフェ(ビリヤードや卓球ができる) スタジオやカフェでイベントの開催(親子で行う体操等) 大型ショッピングセンターの通路(混雑時を避け、ウォーキング等ができる)→歩数をポイント化し、店舗で特典を受けられると良い。 ・百貨店 ・営業終了後の店舗駐車場 など
その他施設	<ul style="list-style-type: none"> 町内会館 ・児童会館 ・地区センターでのスポーツ利用を充実させてほしい ・小・中学校の運動場 学校の一般開放を個人でも利用できるようにしてほしい(現状はクラブチームの利用が多い) 市内にある専門学校のプール(夏期休暇中) リハビリ施設(機材や場所を活用し、一般の人も利用できるとよい) 市役所やマンション等の会議室 ・ビルの屋上 ・ホテルの宴会場 温泉施設(運動後に温泉が利用できて良い) など
屋外	<ul style="list-style-type: none"> 公園の自由度を高めて利用したい(現状はボールの使用やソリ遊びなど禁止事項が多い)。 あまり利用されていない公園を再整備してはどうか。 ・大きめの公園や空き地 ・河川敷、豊平川 冬期の駐輪場 ・歩道(散歩用) ・歩行者天国 ・サイクリングロードをもっと増やしてほしい。 など
その他	<ul style="list-style-type: none"> 個人のレッスン教室(高齢なので、サポートを受けて運動できる環境が望ましい) ・家の中 スポーツできる場所について、回覧板等で情報共有できると良い。 など

7 札幌市スポーツ推進計画改定版(案)に対する市民意見

札幌市スポーツ推進計画改定版(案)について、パブリックコメントを実施し、市民の皆さんからのご意見を募集しました。

1 パブリックコメントの概要

(1) 意見募集期間

平成31年(2019年)3月18日(月)～4月16日(火) 30日間

(2) 意見提出方法

郵送、FAX、電子メール、ホームページ、持参

(3) 資料の配布、閲覧場所

ア 札幌市スポーツ局スポーツ部企画事業課(北1西3 ばらと北一条ビル6階)

イ 札幌市役所本庁舎2階 市政刊行物コーナー

ウ 各区役所(総務企画課広聴係)

エ 各まちづくりセンター

2 パブリックコメントの内訳

(1) 意見提出者数・意見件数

6人・19件

(2) 年代別内訳

40代:1人(1件) 50代:1人(6件) 60代:3人(9件) 不明:1人(3件)

(3) 提出方法別内訳

FAX:3人 電子メール:1人 ホームページ:2人

(4) 項目別意見数

ア 第3章 スポーツを取り巻く現状と課題 4件

イ 第5章 目標達成に向けた方針・施策 11件

ウ その他 4件

3 意見の概要と札幌市の考え方

第3章 スポーツを取り巻く現状と課題

No.	意見の概要	札幌市の考え方
1	30代、40代のスポーツ実施率の低下は、体育振興会にとっては、将来の運営が不安視される重要な問題である。	30代、40代のスポーツ実施率の低迷は課題と認識しています。今後は、ビジネスパーソンや子育て世代においても、スポーツに取り組みやすい環境づくりを進めてまいります。
2	「各区や地域単位で実施するスポーツイベントの開催や支援を行っていくことが重要」とあるが、どのような支援を行うのか。	P51の方針3の施策6や施策7のように、地域におけるスポーツ活動の支援や、スポーツを支える人材の育成などを行ってまいります。
3	国が掲げる「一億総スポーツ社会」は、国民にスポーツを行うことを強制するよう見え、スポーツに興味のない人にとっては迷惑な標語である。	「一億総スポーツ社会」の実現は、多面に渡るスポーツの価値を広め、すべての人々が「する」だけでなく、「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに参加できるようにしていくことが重要と考えており、スポーツを行うことを強制するものではありません。
4	東京五輪の開催経費では、当初の試算額から大幅に増加するなど経理内容が不透明に感じる。 冬季五輪も前回開催時とは異なり、競技種目数が多く商業イベントでしかないことから、開催のために巨額の税金を投入するのは反対である。	オリンピック・パラリンピックの招致にあたっては、単なる一過性のイベントに終わらせることなく、世界に誇るウインタースポーツ都市としてのブランド向上や共生社会の実現、次世代に残していくための施設整備など、将来の札幌のまちづくりに資するものになりたいと考えています。 今後も、市民の皆さまの理解と協力が得られるよう、さらなる財政負担の削減と透明性の向上に努めてまいります。

第5章 目標達成に向けた方針・施策

No.	意見の概要	札幌市の考え方
5	地域スポーツ指導者の中学校への派遣について、スキー学習への派遣だけではなく、他のスポーツにも広げてはどうか。	スキー授業への派遣が主ですが、クロスカントリーやスケートへの派遣も行っております。今後も学校側のニーズを踏まえながら、子どものスポーツ活動の機会の充実を図ってまいります。
6	市内には参加費無料で市民の健康増進や体力維持につながる有意義な催しを行っている団体がある。このような市民に貢献している「民の組織」を、しっかりと応援してほしい。	ご意見のとおり、スポーツを振興していく上では、札幌市のみならず、市民やスポーツ関係団体、そして企業など様々な主体との連携が重要であり、スポーツ推進計画の取組については、これらの主体と協働して進めていきたいと考えております。
7	ウインタースポーツ塾に札幌市が考案したスノーホッケーが入っていない。全市をあげて普及活動してほしい。	スノーホッケーはウインタースポーツ塾の種目として採用しておりませんが、札幌市では、スノーホッケーを含めたウインタースポーツの普及振興に努めてまいります。
8	スポーツを通じた健康増進について、運動は程々が好ましく、健康面からも無理に競技を押し付けるべきではない。	スポーツは継続的に行うことで、体力の向上や健康の増進が期待できます。市民それぞれの力量や健康状態などに応じて適度に行うものと考えております。
9	地域のスポーツ活動の活性化のため、体育振興会への「助言・指導を行う」とあるが、どのような人が行うのか。	札幌市が、体育振興会など地域スポーツクラブとしての役割を担う団体に対して、講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の紹介などのサポートを行ってまいります。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
10	海外でのオリンピックやアジア大会では有償ボランティアの比率が高いが、スポーツボランティア「スマイル・サポーターズ」は有償なのか。 また、ボランティア活動は自発的なものであることから、「スマイル・サポーターズ」のように組織化することには反対である。	「スマイル・サポーターズ」には報酬はありませんが、イベント主催者の意向により交通費や活動経費が支給となる場合があります。また、「スマイル・サポーターズ」の皆さまに対しては、スポーツイベントごとに活動していただける方を募集し、自発的に参加される方にご協力いただいております。
11	「スマイル・サポーターズ」の派遣先に各地域のスポーツイベントを入れてはどうか	各地域で開催されるスポーツイベントの情報についても「さっぽろグローバルスポーツコミッション」のホームページに掲載し、「スマイル・サポーターズ」の募集を行っており派遣対象としております。
12	過去に教育委員会が主となり実施していた「スポーツリーダー講習会」を再開してほしい。スポーツ推進委員、体育振興会、町内会の体育部員を対象に地域のスポーツを「ささえる」ための人材育成をしてほしい。	札幌市では、計画P52の施策7のように、地域のスポーツを支える人材の育成に努めているほか、各競技団体においても、指導者などの支える人材を対象とした講習会を実施していますので、これらの機会を活用して、地域のスポーツを支える人材の育成に努めてまいります。
13	トップアスリートに選ばれるのは一握りであり、トップアスリートになれない多くの選手を生み出してしまふ。 トップアスリートになれない多くの選手達の受け入れ先が少ないことから、アスリートの育成支援には反対である。	地元出身のアスリート輩出は、地元の誇りにもなり、市民がスポーツに取り組もうとする動機にもつながると考えております。 また、札幌市では、一線を退いたアスリートのセカンドキャリアを活用しながら、選手育成や競技力向上を図ることで、次世代のアスリートの育成へとつながる好循環を目指してまいります。
14	健常者が障がい者スポーツに接する機会が少ないので、障がい者スポーツ大会等にもスポーツボランティアを派遣してはどうか。	2019年に札幌で開催されたワールドパラノルディックスキーワールドカップや、平昌オリンピック・パラリンピックの開催期間中に地下歩行空間で行われたパラスポーツイベントにも、運営補助などのために「スマイル・サポーターズ」を派遣しております。 引き続き、障がい者スポーツ大会等への派遣も行っております。
15	冬季版ハイパフォーマンスセンターのような箱物施設を造るのではなく、チームドクターや医療アドバイザーのスタッフ班を配置するだけでよい。	様々な冬季競技のアスリートや競技団体から、スポーツ科学・医学・情報を取り入れたトレーニングや合宿、競技を超えたコミュニケーション等が自由に行える活動拠点として冬季版ハイパフォーマンスセンターの設置を求める声が寄せられています。冬季オリンピック・パラリンピック招致を目指す札幌市として、ウインタースポーツの振興や競技力向上のためにも誘致に向けて取り組んでいきたいと考えています。

その他

No.	意見の概要	札幌市の考え方
16	スポーツに参加したくても化学物質過敏症のため香料成分で体調を崩してしまう。そういう人でもスポーツに参加できるように、体育館の利用時間や観覧席を分けてほしい。	柔軟剤などのおいにより様々な症状に苦しんでいる方がいるという事象については、札幌市ホームページ等を通じて「香りのエチケット」に関する普及啓発を行っているところです。 今後も国や他自治体の動向などを注視してまいります。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
17	札幌市の体育館の利用料金が他の市町村と比較して高いので、引き下げを希望する。 その分高齢者の料金を引き上げてもいいので、若い人がもっと利用しやすい価格を設定してほしい。	若い世代のスポーツ実施率を高めていくことは今後の課題であると認識しており、札幌市では、小中学生の体育館及びプールの利用料金を無料としています。いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。
18	一部の体育館では施設管理が行き届いておらず、利用者が冬期間の除雪をしたりするなど、善意で施設管理をしている場合がある。利用料金に見合う快適な施設の維持管理を希望する。	ご意見のとおり、施設の維持管理は施設管理者が行うべきものであり、今後は適正な施設管理に努めてまいります。
19	大規模スポーツイベント開催にかかるイベント費用は施設の充実や利用促進に使用してほしい。	大規模スポーツイベントの開催は、市民がトップスポーツに触れる機会を創出するとともに、都市ブランドの向上にもつながっていくものです。大会開催によるレガシーを活用して札幌の魅力を一層高めてまいりたいと考えております。

4 計画案の修正

パブリックコメントに寄せられた意見を踏まえ、以下の修正を行いました。

修正箇所	修正前	修正後
P51 第5章 方針3 施策6	(1) 地域におけるスポーツ活動の支援 具体的な取組 ・ 地域スポーツクラブの活動支援 地域スポーツクラブとしての役割を担う体育振興会の活動を支援し、講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の情報提供などの協力を行うとともに、体育振興会主催のイベントが活発に行なわれるよう、助言・指導を行うことで、地域のスポーツ活動の活性化を図ります。	(1) 地域におけるスポーツ活動の支援 具体的な取組 ・ 地域スポーツクラブの活動支援 体育振興会など地域スポーツクラブとしての役割を担う団体に対して、札幌市が講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の情報提供などの協力をを行うとともに、 <u>地域におけるスポーツイベント</u> が活発に行なわれるよう、必要に応じて、助言や指導を行うことで、地域のスポーツ活動の活性化を図ります。

○札幌市スポーツ推進審議会条例

昭和38年3月26日 条例第14号

(設置)

第1条 本市は、スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第31条の規定に基づき、札幌市スポーツ推進審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 審議会の委員の定数は、10人以内とする。

2 特別の事項を調査審議するため、必要があるときは、審議会に臨時委員を置くことができる。

3 審議会の委員及び臨時委員は、スポーツに関する学識経験のある者及び関係行政機関の職員のうちから、教育委員会が委嘱する。

(任期)

第3条 審議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 審議会の委員は、再任されることができる。

3 臨時委員は、特別の事項に関する調査審議を終了したときは、退任するものとする。

(施行細則)

第4条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

9 第27期 札幌市スポーツ推進審議会委員名簿

審議会役職	氏名	職業・役職
会 長	石澤 伸弘	北海道教育大学札幌校 教授
副会長	佐藤 美紀子	札幌市体育振興会連絡協議会 幹事
委 員	浅香 博文	一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会 会長
	阿部 雅司	元スキーノルディック複合競技選手
	岩崎 亮輔	株式会社コンサドーレ 経営管理本部長
	川口 恵子	札幌市スポーツ推進委員会 理事
	長澤 茂嗣	一般財団法人札幌市体育協会 副会長
	中山 勝喜	札幌市中学校体育連盟 会長
	西村 光弘	一般社団法人札幌市医師会 理事
	堀田 真理	札幌商工会議所女性会

(委員名は50音順に記載。令和元年(2019年)6月1日現在)

10 用語解説

番号	語句	解説
1	健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。平均寿命との差が短いほど、個人の生活の質が高く保たれているとされている
2	ライフステージ	人間の一生において節目となる出来事(出生、入学、卒業、就職、結婚、出産、子育て、退職など)によって区分される生活環境の段階
3	共生社会	誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である
4	都市基盤	鉄道・道路・上下水道・公園・緑地・学校や区役所等の建築物など、都市を構成する基盤となる構造物
5	バリアフリー	高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がいを無くすこと
6	レガシー	オリンピック・パラリンピック開催等を契機として社会に生み出される持続的な効果
7	シティプロモート	まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動
8	スポーツツーリズム	スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである
9	スポーツボランティア	スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わることを指す
10	繁忙期と閑散期	札幌市においては、月別の観光客入込数が多い7月～9月(繁忙期)と少ない11月～4月(閑散期)を示している

番号	語句	解説
11	交流人口	観光者などの一時的・短期滞在からなる人口。定住人口(その地域に住んでいる人口、居住人口)に対する概念
12	超高齢社会	総人口に占める65歳以上の人口割合が21%を超える社会のこと。なお、7%以上14%未満を「高齢化社会」14%以上21%未満を「高齢社会」と呼ぶ
13	ビジネスパーソン	20歳代から50歳代にかけての働く世代のこと
14	通年型施設	1年を通じて利用できる施設
15	スポーツ推進委員	スポーツ基本法第32条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する非常勤の職員(任期2年)。各地域のスポーツ関係団体と連携を図り、全市及び各区スポーツ事業等の企画・運営及び指導を行うなど、地域スポーツの振興に取り組んでいる
16	体育振興会	地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織
17	ウインタースポーツ都市	ウインタースポーツの拠点としての環境・ライフスタイルが充実した都市
18	公衆無線LAN	駅や空港などの公共施設や飲食店などで、ケーブルがなくてもインターネットに接続できる仕組み
19	指定管理者	公の施設の設置目的を効果的に達成するため、法令等に基づき、その施設の管理運営を行うよう、地方公共団体によって指定された、法人その他の団体。
20	直接スポーツ観戦率	年に1回以上スポーツを直接観戦した18歳以上の割合
21	スマイル・サポーターズ	冬季アジア札幌大会におけるスポーツボランティアの名称。現在も札幌マラソンや北海道マラソンなどのスポーツイベントにおいてボランティア活動を行っている
22	地域スポーツクラブ	住民がその興味又は関心に応じて身近にスポーツに親しむことができるよう、住民が主体的に運営するスポーツ団体
23	インバウンド	外国人観光客が日本に旅行しに来ること
24	観光資源	観光やレジャーといった余暇を楽しむ需要に応じられる要素のこと

番号	語句	解説
25	ライフスタイル	生活様式、営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方
26	シビックプライド	市民が、都市を構成する一員であることを自覚し、誇りや愛着をもって、都市をより良くしようとする当事者意識
27	持続可能な開発目標 (SDGs)	2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17の目標(ゴール)と169の取組(ターゲット)から構成されている。
28	スポーツ・インテグリティ	ドーピング、八百長、違法賭博、暴力、ハラスメント、差別、団体ガバナンスの欠如等の不正がない状態であり、スポーツに携わる者が自らの規範意識に基づいて誠実に行動することにより実現されるものとして、国際的に重視されている概念
29	アクセシビリティ	年齢や身体障害の有無に関係なく、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できること
30	コミュニケーションボード	指差しなどにより意思疎通をするため、絵・図や簡易な日本語を記載したボード。知的障がいのある方などとのコミュニケーションを図るため利用される
31	MICE	多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。Meeting(会議・セミナー)、Incentive Travel(Tour)(企業報奨・研修旅行)、Convention(大会・学会・国際会議)、Exhibition(イベント、展示会、見本市)の頭文字をとったもの
32	オリンピック・パラリンピック教育	オリンピック・パラリンピックを題材にして、①スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上、②障がい者を含めた多くの国民の幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的参画の定着・拡大、③児童生徒を始めとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成を推進することを目的とした教育